

令和 7 年度
(令和 6 年度事業分)

益田市教育委員会
点検・評価報告書

益田市教育委員会

令和 7 年 8 月

《目次》

1 益田市教育委員会の事務に関する点検・評価について	1
(1) 趣旨	
(2) 点検及び評価の対象	
(3) 点検及び評価の方法	
(4) 益田市教育委員会外部評価委員会委員	
(5) 益田市教育委員会外部評価委員会開催状況	
2 益田市教育委員会事務事業の点検・評価の概要	3
(1) 評価対象事業	
(2) 評価の観点	
(3) 評価結果の概要	
(4) with コロナ/after コロナにおける教育環境の変化	
(5) 重点項目別評価	
3 点検・評価に対する外部評価委員からの意見	18
志々田 まなみ 氏（文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官）	
藤 井 一 成 氏（元益田市立中学校長）	
村 上 護 氏（元益田市立小学校長）	
豊 田 美 絵 氏（保護者代表（中西中学校PTA副会長））	
4 外部評価委員会を終えて	22

資料編

- 【資料1】 令和6年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート
- 【資料2】 令和7年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート
- 【資料3】 令和7年度 益田市の教育の概要

1 益田市教育委員会の事務に関する点検・評価について

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（平成20年4月1日施行）に基づき、教育委員会は毎年その権限に属する事務管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を公表することとされています。

益田市教育委員会では、益田市「教育に関する大綱」に掲げた重点項目及び「令和6年度の施政方針」並びに「令和6年度教育行政の取組について」に掲げた重点項目について点検及び評価を行い、この報告書を作成しました。これを公表し、市民の皆さんに現時点における益田市の教育の現状に対するご理解をいただくとともに教育行政の一層の推進を図ってまいります。

(2) 点検及び評価の対象

点検及び評価の対象とする事務事業は、令和3年3月に策定した「第6次益田市総合振興計画」に定める基本施策を踏まえ、6つの重点項目を掲げ、関係教育機関との連携を密にしながら、広く市民の理解と協力を得て、教育行政を総合的に推進してまいりました。この6つの重点項目にかかる教育行政の推進上重要な事業について、令和6年度の事業実績を基に点検及び評価を行うことといたします。

- 重点項目1 次代を担う人を育てる教育環境の充実（評価対象事業 8）
- 重点項目2 地域・世代を越えた学習機会の創出（評価対象事業 2）
- 重点項目3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進（評価対象事業 1）
- 重点項目4 食と農への理解の促進（評価対象事業 1）
- 重点項目5 生涯スポーツ社会の実現（評価対象事業 1）
- 重点項目6 人権の尊重の推進（評価対象事業 1）

(3) 点検及び評価の方法

- ① 点検及び評価にあたっては、上記の6つの重点項目に位置付けている事業について、事務事業別点検・評価シートに改善事項又は課題や今後の取組の方向性を記載し、各事業の評価点を自己採点し、その評価点を次の基準に照らして自己評価しています。

自己評価	評価対象事業に対する達成状況の基準
A	目標どおりの成果があった
B	目標には届かないが高い成果があった
C	一定の成果があった
D	期待した成果が認められなかった
E	見直しの必要性がある

- ② 各評価対象事業の実績を踏まえ、それぞれの効果や執行状況等を点検及び評価し、その結果を取りまとめた報告書（本書）を作成します。また、報告書の作成にあたっては、益田市教育委員会外部評価委員会の知見を活用し、評価の妥当性などについて意見を求め、次年度の教育行政に反映させるとともに事務事業の計画、実施に反映させます。

（４）益田市教育委員会外部評価委員会委員

志々田 まなみ 氏 （任期：令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日）
藤 井 一 成 氏 （任期：令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日）
森 脇 達 也 氏 （任期：令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 12 月 25 日）
村 上 護 氏 （任期：令和 6 年 12 月 26 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日）
豊 田 美 絵 氏 （任期：令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日）

（５）益田市教育委員会外部評価委員会開催状況

月 日	場 所
令和 7 年 7 月 16 日	益田市立保健センター大ホール
令和 7 年 8 月 20 日	益田市立市民学習センター 203 号室

2 益田市教育委員会事務事業の点検・評価の概要

(1) 評価対象事業

令和6年度においては、次の6つの重点項目に14の評価対象事業を設けました。

重点項目1 次代を担う人を育てる教育環境の充実

- ① 地域ぐるみでの教育の推進（保護者と連携したメディアコントロールの取組）
- ② 確かな学力の向上を目指した教育の推進
- ③ 確かな学力の向上を目指した教育の推進と子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進
- ④ 子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進（いじめ未然防止の組織的な取組）
- ⑤ 益田市型中高一貫教育の推進
- ⑥ ふるさとを愛し、誇りを持つ心を育てる教育の推進
- ⑦ 教育環境の整備・活用
- ⑧ ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成

重点項目2 地域・世代を越えた学習機会の創出

- ⑨ 地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化
- ⑩ 社会教育の推進と活動拠点づくり

重点項目3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進

- ⑪ 豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用

重点項目4 食と農への理解の促進

- ⑫ 学校給食における地産地消と食育の推進

重点項目5 生涯スポーツ社会の実現

- ⑬ スポーツ環境の充実

重点項目6 人権の尊重の推進

- ⑭ 人権・同和教育と人権啓発の推進

(2) 評価の観点

上記の評価対象事業については、「令和6年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート」（別紙 資料1）に基づき事業目標を立て、その実績により評価点をそれぞれ自己採点したうえで、その点数で自己評価を行いました。

(3) 評価結果の概要

【評価対象事業の自己評価の集計】

重点項目	自己評価				
	A	B	C	D	E
次代を担う人を育てる教育環境の充実	⑥ ⑧	① ② ③ ⑤ ⑦	④		
地域・世代を越えた学習機会の創出		⑨ ⑩			
歴史・文化の保存・継承・調査・活用 や芸術活動の推進		⑪			
食と農への理解の促進			⑫		
生涯スポーツ社会の実現			⑬		
人権の尊重の推進	⑭				

各重点項目における各々の具体施策の自己評価を集計した評価結果は次のとおりです。【資料1】「令和6年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート」にある各項目の目標値及び令和6年度実績などと比較しながら整理しています。

・A評価（目標どおりの成果があった）・・>3事業

⑥「ふるさとを愛し、誇りを持つ心を育てる教育の推進」

全国山城サミット益田大会の開催を通して、児童生徒が中世益田の文化遺産に触れる機会を積極的に持つことができたところです。また、校区内に日本遺産の構成文化財が数多くある益田東中学校の「日本遺産スタンプラリー」の取組や益田小学校では総合的な学習の時間を利用して、校区内の文化財を訪ねるフィールドワークなどの中世益田を題材とした教材を授業に取り入れる取組が少しずつ増えてきており、子どもたちの地域の歴史文化に対する関心や理解が深まった結果を評価しています。他にも発掘体験や総合的な学習「中世益田の歴史について」現地見学会、益田市歴史文化交流館（れきしーな）の企画展への現地見学などに取り組んでいます。

⑧「ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成」

公民館の活動やつろうて子育て協議会などの取組により、地域を活動拠点とした長期休暇における体験教室や交流事業など、市内全域で学校の学びを地域活動に活かす取組が実施できたところです。また、ライフキャリア教育プログラムに関わる大人の人数においては、昨年の実績は下回ったものの、引き続き目標値を上回る多くの大人が関わったことで、様々な場面で多様な価値観に触れる機会を創出することができたところです。これらに起因して、全国学力・学習状況調査質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」における肯定的回答の目標値を上回る結果を得たことなどを評価しています。

⑭「人権・同和教育と人権啓発の推進」

小中学校や地域の団体等と連携し、様々な人権課題に関する人権研修や人権啓発展示、DVD上映、地域住民の交流事業など、地域の特色を生かしながら人権啓発に取り組む研修会の開催や社会情勢、参加者アンケートから関心のある人権問題をテーマに取り上げた研修会を開催することで参加者の目標値を大きく上回る結果を得ることができたところを評価しています。

・B評価（目標には届かないが高い成果があった）・・>8事業

①「地域ぐるみでの教育の推進（保護者と連携したメディアコントロールの取組）」

情報モラル教育研修会での保護者アンケート調査について、2つの質問に対する回答が昨年度の実績値を超えるとともに目標値を超えることができたところです。テレビゲームの利用やスマートフォン等の利用時間は中学生で増加しており、目標値に満たない結果になったことなどを考慮して評価しています。

②「確かな学力の向上を目指した教育の推進」

島根県学力調査の平均正答率と目標値との差の経年比較は小学校では達成できたものの、中学校では達成できませんでした。しかしながら、全国学力・学習状況調査質問紙「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができている」の割合が小学生80%、中学生87%と目標値を超える結果となったところです。これにより児童生徒の多くが、対話による気づきの広がりや深まりを実感できていることが見受けられます。

③「確かな学力の向上を目指した教育の推進と子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進」

1人1台端末を含めたICT機器の活用が進む中で、1日1回以上活用している教員の割合が小学校93%、中学校100%となり、児童生徒の活用に付随した取組が行われています。また、学習指導要領の改訂により、小学校に「外国語」「外国語活動」が導入されたことから、校区の中学校から英語の免許のある教員が小学校の授業をサポートする形で参加したり、外国語の授業の進め方を小中担当で相談したりする、授業者間交流を始めました。益田市ではこの取組を小中一貫教育に基づく授業者間交流として実施してきました。この授業者間交流の実施については、昨年の実績を超える成果が得られました。

⑤「益田市型中高一貫教育の推進」

中高連携学力育成推進事業の参加者アンケートでは「自ら進んで学習する意識が高まった」の肯定的回答が目標値を超える結果となっています。しかし、「算数・数学パワーアップ教室」では、実施後の児童生徒アンケートにおいて、「難しい問題にもチャレンジしたい気持ちが、参加する前よりも強くなった」の肯定的回答が昨年度の実績を下回るものになったことなどを評価しています。

⑦「教育環境の整備・活用」

学校施設の耐震化については、益田中学校渡り廊下改修工事の対象2棟の内、令和6年度に1棟は完了しましたが、もう1棟については国補助金の交付決定が遅れたことにより令和7年度への繰越事業となったところです。また、学校トイレの改修及び教具・遊具の計画的な更新については、予定していた工事すべてを年度内に完了することができたことを踏まえて評価しています。

⑨「地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化」

公民館やつろうて子育て協議会、放課後子ども教室（ボランティアハウス）を中心に、野外体験活動や放課後の地域交流など、高齢者や小中高大学生などの異年代、異校種の子ども同士の交流活動を展開することができたところです。また、他団体との連携により、それぞれの専門性や強みを活かすことでプログラム内容の充実が図られたほか、子どもたちが積極的に公民館活動等に参加する傾向が見られ始めたことを評価しています。

⑩「社会教育の推進と活動拠点づくり」

益田市公民館職員研修プログラム実施要項に基づき、職員の資質向上やスキルアップ向上を目的とした研修に計画的に取り組むことができたところです。また、社会教育コーディネーターの必要数を配置することができなかったところですが、確保に向けオンライン面談や現地案内を積極的に実施したところです。また、社会教育コーディネーターが関わった世代間交流については、各地区

において地域の特色を踏まえた活動を地域住民や中高大学生を巻き込み取り組むことができたことを評価しています。

⑪「豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用」

全国山城サミット益田大会や「益田市文化財保存活用地域計画」関連事業などの実施により、本市の歴史文化の普及や歴史文化遺産による啓発が進み、歴史文化を活かした地域活性化の取組が民間主導・官民連携で進んでいることなどを評価しています。

・C評価（一定の成果があった）・・>3事業

⑫「子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進（いじめ未然防止の組織的な取組）」

昨年度より益田市では、「かかわりあう集団づくり」「いじめ未然防止教育を重視した対応」「社会的自立に向けた不登校支援」の3つを合言葉に、生徒指導推進プランに取り組んでいます。生徒指導推進プランを継続して各校で取り組むことにより、不登校及び不登校傾向の児童生徒と関係機関との連携実績は目標値を超えないものの昨年度と同水準となる成果となっています。しかし、全国学力・学習状況調査質問紙における「学校に行くのは楽しいと思う」における肯定的回答において、小学生は前年度を下回ったことなどを総合的に評価しています。

⑬「学校給食における地産地消と食育の推進」

食育の取組としては、昨年度に引き続いて国の財源や農林水産課の事業を活用し、益田産の果物、野菜等を積極的に食材として使用したところですが、地元生産者の減少や猛暑等の影響により地場産物の調達に苦慮したことから、地産地消比率が減少する結果となりました。そのような中でも、地元の松永牧場と全国肉牛事業協同組合より地元で育った牛からとれた牛肉の提供を受け、すき焼き丼の提供に繋がったことや栄養教諭等による食育指導の実績は前年度より増加したところです。しかし、児童生徒の学校給食献立の作成については、他の授業内容を優先したことで授業における積極的な献立作成に繋がらなかったことから前年度の数値に満たない結果となったことをふまえて評価をしています。

⑭「スポーツ環境の充実」

スポーツ施設の利用者数については、施設の改修や各種大会が東部開催となった関係で、令和5年度実績を下回る結果となりました。また、「親子いきいき元気プログラム」について、昨年度のアンケート結果をふまえ、土日の午前中に開催したことにより、申込人数は目標を大きく上回っていましたが、実際の参加人数は前年度を下回る結果となってしまったことなどを評価しています。

(4) with コロナ/after コロナにおける教育環境の変化

令和5年5月8日に感染症法における新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へと移行してから2年が経ちました。学校生活や生涯学習活動における学習状況及び学習や生活に関する実態、社会教育施設の活用状況などをコロナ禍前の令和元年度、コロナ禍（with コロナ）である令和4年度を参考に、本市の教育が令和5年度、令和6年度（after コロナ）とでどのような変化であったか検証します。

まず、学校生活における平均授業時数は、コロナ禍にあった令和4年度との比較で小学校、中学校ともに増加しています。しかし、令和5年度との比較では、小学校は減、中学校は変化なしとなっています。時数の減については予備時数を抑えたことが要因と考えられます。

【平均授業時数】

	小学校6年生				中学校3年生			
	令和6年度	令和5年度	令和4年度	増減(R6-R5)	令和6年度	令和5年度	令和4年度	増減(R6-R5)
平均授業時数	1,034 時間	1,049 時間	1,027 時間	△ 15 時間	1,025 時間	1,025 時間	1,024 時間	0 時間

【参考】令和元年度：(小学校6年生) 989 時間 (中学校3年生) 1,002 時間

令和5年度と令和6年度の平均学校行事時間数を比較すると、小学校、中学校ともに微減となっています。時間数が減となった要因については、コロナにより行事のあり方を見直したこと、小学校は2学期制の導入などが考えられます。

【平均学校行事時間数】

	小学校6年生				中学校3年生			
	令和6年度	令和5年度	令和4年度	増減(R6-R5)	令和6年度	令和5年度	令和4年度	増減(R6-R5)
時間	42 時間	43 時間	40 時間	△1 時間	36 時間	42 時間	46 時間	△6 時間

【参考】令和元年度：(小学校6年生) 50 時間 (中学校3年生) 47 時間

学力への影響については、「令和6年度島根県学力調査（令和6年12月3日実施）」結果と「令和5年度島根県学力調査（令和5年12月5日実施）」結果における各教科正答率の益田市と島根県平均との差を同一児童生徒の経年でポイント比較しました。

小学5年時から6年時に至る算数、中学1年時から2年時に至る国語については島根県平均に比べマイナスではあるが、わずかながら学力の向上が見受けられています。しかし、小学5年時から6年時における国語、中学1年時から2年時に至る数学と英語においては、島根県平均に比べマイナスに加え、学力の低下がみられる結果となっています。

【島根県学力調査結果における各教科正答率（益田市と島根県平均比較ポイント）】

	小学6年時 令和6年度	小学5年時 令和5年度		中学2年時 令和6年度	中学1年時 令和5年度
国 語	△2 ポイント	△1 ポイント	国 語	△2 ポイント	△3 ポイント
算 数	±0 ポイント	△2 ポイント	数 学	△5 ポイント	△1 ポイント
			英 語	△1 ポイント	±0 ポイント

さらに、各教科の正答率を学年毎に島根県平均と比較し、小学5・6年生の国語・算数及び中学1・2年生の国語・数学・英語において、島根県平均を3ポイント以上上回るものを○、下回るものを▽として示しました。

令和6年度においては、小学5・6年については、小学6年の算数以外の科目で県平均を下回っていま

す。中学１・２年については、国語・数学・英語において県平均を下回る結果となっています。

【島根県学力調査結果における各教科の正答率】

		令和６年度			令和５年度			令和４年度		
学 年	教科	益田市	島根県	比較	益田市	島根県	比較	益田市	島根県	比較
小５	国語	63%	65%		66%	67%		67%	68%	
	算数	52%	56%	▽	53%	55%		57%	56%	
小６	国語	61%	63%		57%	59%		70%	68%	
	算数	64%	64%		68%	67%		70%	61%	○

		令和６年度			令和５年度			令和４年度		
学 年	教科	益田市	島根県	比較	益田市	島根県	比較	益田市	島根県	比較
中１	国語	54%	59%	▽	57%	60%	▽	56%	59%	▽
	数学	47%	52%	▽	51%	52%		51%	53%	
	英語	44%	49%	▽	51%	51%		49%	52%	▽
中２	国語	55%	57%		64%	66%		61%	65%	▽
	数学	44%	49%	▽	48%	47%		40%	46%	▽
	英語	43%	44%		45%	47%		43%	49%	▽

「令和６年度島根県学力調査結果」による「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」割合は、学年が上がっていくごとに増加しています。

【「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した割合】

	令和６年度	令和５年度	令和４年度	差(R6-R5)
小学校５年生	59%			
小学校６年生	71%	73%		－2%
中学校１年生	73%	67%	63%	＋6%
中学校２年生	81%	72%	72%	＋9%

日常業務における教員の負担について、タイムカードを導入し、超過勤務時間の客観的把握を行っています。令和６年度の超過勤務時間の推移をみると小学校・中学校とも令和５年度より減少しているところです。これは、小学校では生活時程の変更、中学校では部活動時間の減、日常業務におけるスクールサポートスタッフの配置により、超過勤務時間の減少につながっています。小学校の生活時程の変更の例としては、朝の始業時刻を早めたり、掃除を週２回にしたり、休憩時間を１０分から５分に短縮するなどがあります。

【教員における超過勤務時間数（月平均時間数）】

	令和６年度	令和５年度	令和４年度	差（R6-R5）
小学校	27 時間 33 分	30 時間 08 分	32 時間 49 分	▽2 時間 35 分
中学校	30 時間 30 分	32 時間 31 分	37 時間 56 分	▽2 時間 01 分

【参考】令和元年度：（小学校）38 時間 38 分 （中学校）39 時間 35 分

不登校児童生徒数については、小学校及び中学校それぞれ微増となっており、不登校及び不登校傾向ともに増加傾向となっています。令和6年度の不登校児童生徒数の割合は、本市が3.88%（126人）であり、島根県全体では4.89%（2,401人）となっており、数値は下回っています。また、不登校児童生徒が関係機関とつながっていない状況である「つながりなし」の児童生徒は、全体で令和5年度の5%から令和6年度は増減がありませんでした。

【不登校児童生徒数】

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	差(R6-R5)
小学校	60人	59人	55人	+1人
中学校	66人	64人	58人	+2人

【参考】令和元年度：(小学校) 24人 (中学校) 28人

令和6年度の公民館利用者については、前年度比で6.6%増加しています。各種事業や行事、集会等の再開により年々増加しています。また、益田運動公園利用者については、令和5年度と比べ利用者が9,784人減少していますが、各種大会の開催地の状況に影響されるものと考えます。なお、雪舟の郷記念館は、施設改修のため休館中です。

【文化・スポーツ施設等利用者数】

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	増減(R6-R5)
公民館利用者数	128,419人	120,442人	97,386人	7,977人
運動公園利用者数	140,764人	150,548人	134,924人	△9,784人
雪舟の郷記念館入館者数	休館中のため 実績なし	5,361人	3,423人	

【参考】令和元年度：公民館利用者数 141,582人 運動公園利用者数 149,360人
雪舟の郷記念館入館者数 3,092人

図書館については、令和6年度の益田館の入館者数が前年比4.27%の増加、利用者(貸出)数は前年比0.91%の減少となりました。また、美都館については入館者数が前年比7.61%の増加、利用者(貸出)数は前年比16.41%の増加となりました。

【図書館入館者数等】

図 書 館	益 田				美 都			
	令和6年度	令和5年度	令和4年度	増減 (R6-R5)	令和6年度	令和5年度	令和4年度	増減 (R6-R5)
入館者数	106,420人	102,058人	95,282人	4,362人	1,414人	1,314人	1,214人	100人
利用者(貸出)数	31,968人	32,263人	32,616人	△295人	1,000人	859人	850人	141人

【参考】令和元年度：(益田) 入館者数 130,504人 利用者数 41,659人
(美都) 入館者数 1,780人 利用者数 1,122人

(5) 重点項目別評価

重点項目1 次代を担う人を育てる教育環境の充実

【取組方針】・良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。

・一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。

① 評価対象事業「地域ぐるみでの教育の推進（保護者と連携したメディアコントロールの取組）」

この事業は、児童・生徒、保護者などが正しい情報活用能力を身に付けられるよう、メディアコントロール、情報リテラシーに関する取組を強化することを目的としています。

評価対象事業目標として4項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

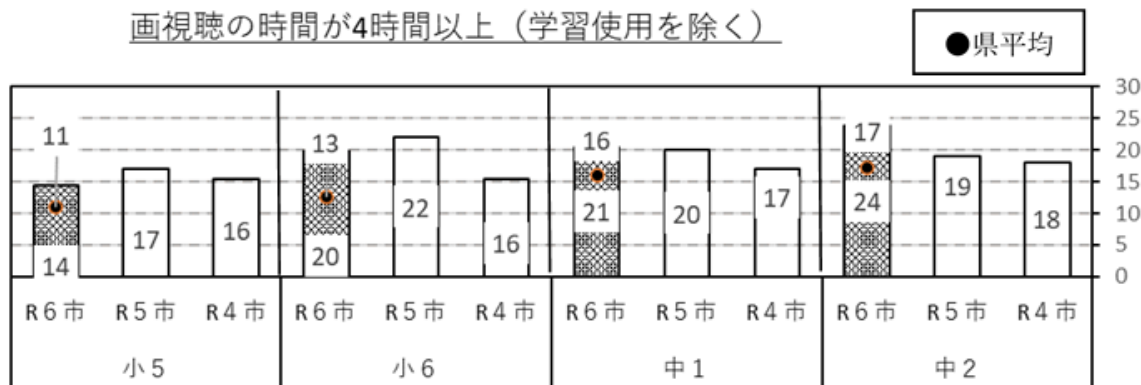
まず、令和4年度に評価対象事業目標として設定した島根県学力調査質問紙「普段、1日あたり4時間以上テレビゲームをしている」割合が小学生20%、中学生15%以下について、達成状況については、平日のゲームをしている時間4時間以上が小学生は19%以下と目標値に達しているものの、中学生は19%以下と目標を下回る結果となっています。

④ 普段（平日）テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）のプレイ時間4時間以上



同じく「普段、1日当たり4時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する」割合が小学生20%以下、中学生15%以下とした目標を掲げました。達成状況については、平日のスマートフォンを使用している時間4時間以上が小学生17%以下、中学生22%以下と目標を下回る結果となっています。

⑤ 普段（平日）の携帯電話やスマートフォンを使ってのSNSや動画視聴の時間が4時間以上（学習使用を除く）



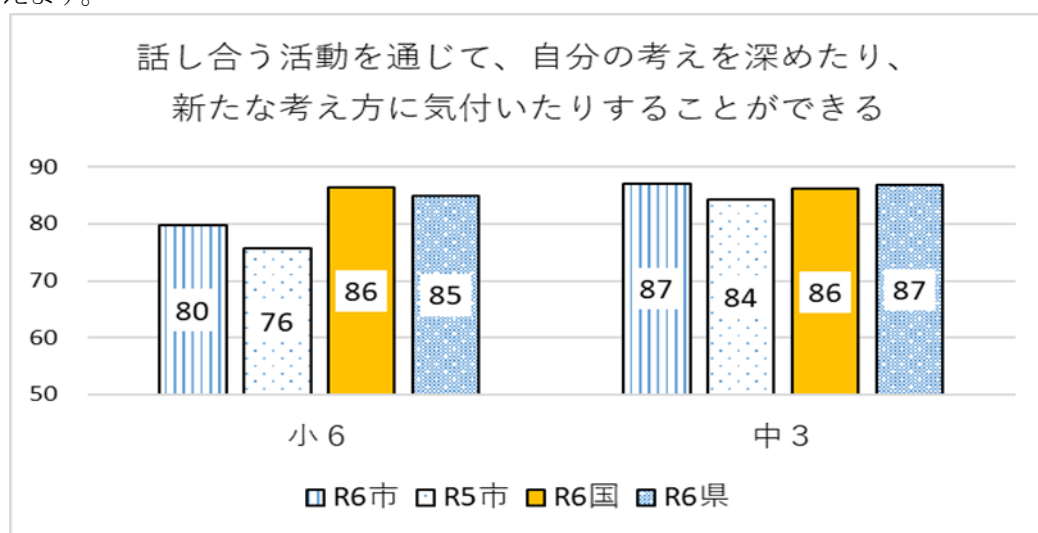
また、市教委主催の情報モラル教育研修会の参加保護者アンケートにおいて、「研修内容を今後の子どもの関わりや取組等に活かしていきたいと思う」の肯定的回答が100%、「学校ではPTAと連携したメディアコントロールの取組を行っている」の肯定的回答が90%であり、目標値に達しています。しかし、研修会への参加者が期待していた参加者数に満たなかったことや、メディアコントロールの取組の実施期間中は各家庭で意識して取り組まれているものの、実施期間が終了すると意識が低下して、メディアコントロールに継続して取り組めていない実態があります。大人の意識向上も併せて図っていく必要があるため、各校での情報リテラシーや情報モラルの授業に、児童生徒だけでなく保護者も一緒に参加できるように計画していきます。また、一般市民向けの情報モラル研修会を保護者が参加しやすいように、参集と動画配信の2つの方法で実施する予定としております。

② 評価対象事業「確かな学力の向上を目指した教育の推進」

この事業は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視した授業の実践を全ての小中学校で行うこととしており、「平均点」というものさしではなく、一人ひとりの伸びを測ることができる調査を活用し、これまで以上に子どもたち一人ひとりに着目した教育を行うことを目的としています。

評価対象事業目標として4項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

まず、全国学力・学習状況調査質問紙「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができる」の割合が小学生80%以上、中学生85%以上とした目標の達成状況については、それぞれ目標値を超える結果となっています。また、市独自アンケートの中で「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」における割合が小学生75%以上、中学生70%以上とした目標の達成状況についても、目標値を超える成果がみられるところです。児童生徒の多くが、対話による気づきの広がりや深まりを実感できており、「難しいことでも挑戦している」ことがうかがえます。



しかし、島根県学力調査の平均正答率と目標値との差の経年比較（小5→小6 中1→中2）+1ポイントの上昇と全国学力・学習状況調査質問紙「国語の勉強が好きだ」「算数・数学の勉強が好きだ」の割合の目標値には達していない結果となりました。このことについて、島根県学力調査の目標値との差は小学校では達成できたものの、中学校では達成できておらず、「国語、算数・数学が好き」の数値はいずれも目標値を超えることには至っていない結果となっています。学力育成への取組については、授業改善以外にないと考えており、問題を解決するための思考力や判断力、表現力、社会で生きていくために必要な知識、技能を身につけることは、従来の教授型の授業では難しいことから、「気づきと対話」のある授業づくりを推進し、学校訪問や授業公開・研究協議に取り組みながら、授業改善につな

げ、学力育成を進めて行くこととします。

③ 評価対象事業「確かな学力の向上を目指した教育の推進と子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進」

この事業は、電子黒板や一人一台端末等、ＩＣＴ機器を活用した新しい学びの推進や校種間連携等の多様な取組を通して、子どもの学力向上を図るや保幼小中高のつながりを一層深め、各年代の教育の充実を図ることを目的としています。

評価対象事業目標として３項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

昨年度の目標から変更し、授業におけるＩＣＴ機器の１日１回以上の活用している教員の割合について、小学校８５％以上、中学校９５％以上とした目標の達成状況ですが、小学校が９３％、中学校１００％と教員においても端末の活用が進んでいることが確認できます。今後も児童生徒、教員における端末活用が更に進んでいくことを注視していく必要があります。

保幼小連携協議会研修会におけるアンケート「小学校１年生の７月までの姿を理解したり共有化したりできている」の肯定的回答９５％以上とした目標値に対して、昨年度の結果を下回るものとなりました。ただし、文部科学省が出した「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」の中で、幼小接続の状況をステップ０から４で表しています。ステップ０は「連携の予定・計画がない」、ステップ１は「連携・接続に着手したいが、まだ検討中である」、ステップ２は「年数回の授業、行事、研究会などの交流はあるが、接続を見通した課程や計画の編成・実施は行われていない」、ステップ３は「授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した課程や計画の編成・実施が行われている」、ステップ４は「接続を見通して編集・実施された課程や計画について、実施計画を踏まえ、更によりよいものとなるように検討が行われている」となっています。益田市においては小学校１５校中１４校がステップ４ないし３となっており、充実した交流活動等が取り組まれています。

また、各中学校区内における小中一貫教育に基づいた授業者間交流を昨年に引き続き２４校実施に目標設定していましたが、目標を達成することができました。これらの取組の成果を踏まえ、引き続きＩＣＴ機器の活用を今後も推進するとともに、保幼小等の施設と小学校との交流活動も継続して行っていくこととしています。また、小中一貫教育は、昨年度まで実施していた外国語による授業者間交流だけでなく、新たに教科・領域を問わず中学校区で授業公開を実施し、小中の教員全員で研究協議を行い、中学校区での授業改善を進めていきます。その中で、小中を通した目指す子ども像を共有しながら、子どもたちの学力育成を更に推進していきます。

④ 評価対象事業「子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進（いじめ未然防止の組織的な取組）」

この事業は、子どもの可能性を伸ばす個別最適化に向け児童・生徒への個別支援に丁寧に取り組むことを目的としています。いじめの未然防止の基盤となる児童生徒と教職員の信頼関係を確認することを目的としています。

評価対象事業目標として３項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

全国学力・学習状況調査の質問紙における「先生はあなたの良いところを認めてくれている」では、小学生、中学生ともに目標値９０％以上に対し、小学生は９０％と目標値に届きましたが、中学生は８９％と昨年の数値や目標値も下回る状況となっています。

また、全国学力・学習状況調査の質問紙「学校に行くのは楽しいと思う」の問いに対する肯定的な回答が小中学校ともに８０％以上とした目標に関しては、中学生は目標値を超える結果となっており、このことから、引き続き「あったか強い益田っ子」を目標とした生徒指導推進プランを設け、市内各校で対話を大切にしながら人間関係の構築を進め、授業改善を促すとともに、教師と児童生徒との信頼関係を醸成するような研修の機会を設定していきます。

不登校及び不登校傾向の児童生徒数は令和６年度は微増となっていますが、関係機関との連携は高い数値を保っており、引き続き対話を大切にしながら教員と児童生徒、児童生徒同士の人間関係作り

と信頼関係の醸成を図り、児童生徒が安心して学び、楽しく生活できる環境を実現していきます。

⑤ 評価対象事業「益田市型中高一貫教育の推進」

この事業は、確かな学力の育成等を中軸として、中学校と高等学校との合計6年間を通じた教育を行うことであり、市内のすべての子どもたちのそれぞれの段階での卒後の選択肢を充実させる取組であり、この取組を通じて子どもたちの将来の可能性を拓くことを目的としています。その具体的な取組として、これまでも取り組んできた①中高連携学力育成推進事業、②理系人材育成協働事業、③市内高校連携推進事業の3つの事業を柱として推進しています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

中高連携学力育成推進事業における参加者アンケートにおいて「自ら進んで学習する意識が高まった」の問いに対する肯定的回答80%とする目標値に対し、87%と目標値を上回る結果となっています。このアンケートでは「友達と楽しく勉強したい」の割合が減り、「学校の宿題がしたい」「授業の復習がしたい」の割合が増えており、「楽しさ」より「課題達成・学習の実用性重視」に意識が変わってきていることがうかがえます。また、それ以外の目標である島根大学と協働実施する「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートの「難しい問題にもチャレンジしたい気持ちが、参加する前よりも強くなった」に対する肯定的回答95%並びに「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートにおいて、「大学生や学生に対するあこがれが強くなった」の肯定的回答95%以上とした目標値については、いずれも目標値を下回っていますが、「算数・数学パワーアップ教室」については、年々参加者が増加しており、複数回参加している児童生徒の参加理由の中には「学生に会いたい」と回答するものも多く、学生との交流から「学生へのあこがれ」へとつながっていることを確認することができます。今後は、中高連携学力育成について、引き続き事業実施状況に関して定期的な小中学校との情報共有・意見交換を通じ、事業受託高校との連携のあり方を確立していきます。また、「算数・数学パワーアップ教室」について、令和7年度より島根大学教育学部の1000時間体験学修にエントリーすることで参加者数に見合う講師役大学生を確保し、他の大学も含め更なる高等教育機関との連携を深めていくこととします。

⑥ 評価対象事業「ふるさとを愛し、誇りを持つ心を育てる教育の推進」

この事業は、日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源について、子どもたちが関心を持ち、さらに理解を深めるために社会科見学の受入れや出前授業などの学習支援を継続し、ふるさとに誇りを持つ地域教育の実践に向け取り組むことを目的としています。

評価対象事業目標として、「益田市の歴史文化は魅力的で誇りに思う」との問いに対する回答で小学生の目標値75%、中学生の目標値65%に対して、小学生83.7%、中学生81.4%と目標を超える結果となっています。令和6年度に開催した全国山城サミット益田大会などを通して、大会に向けての機運醸成や大会当日など山城や中世益田の文化遺産に触れる機会を持つことができたところが大きな要因と考えています。また、市内小中学校の社会科見学の受入れや出前講座の件数における目標値15件に対して、社会科見学12件、出前講座17件の合計29件と大幅に目標を超える成果を得ることができました。今後においても、歴史文化の普及啓発を推進するために学校と連携して、社会科見学や出前講座等の学習支援を継続して行うこととしています。また、地域と連携しての講演会や現地見学会などに対して講師派遣を行い、歴史文化の普及啓発を進めていきます。

⑦ 評価対象事業「教育環境の整備・活用」

この事業は、児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう「益田市学校施設整備計画」などに基づき、施設の耐震化や老朽化の進む施設の計画的な整備を行うことを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

益田中学校渡廊下改修工事の実施及び戸田小学校の移転改修の実施による学校施設耐震化率98%以上の目標値の達成状況については、益田中学校渡廊下改修工事2棟の内、令和6年度からの繰越分である1棟については完了しましたが、もう1棟については国補助金の交付決定が遅れたことにより令和7年度への繰越事業となったところです。しかしながら、学校トイレの改修や屋外で使用する教具・遊具の計画的な更新については、予定していた工事すべてを年度内に完了することができ、即時利用を開始したところです。それぞれ良好な児童生徒の学校施設環境を整えるために、今後も早期の完成を目指し取り組んでいきます。

⑧ 評価対象事業「ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成」

この事業は、「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図ることを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

学校の学びを地域活動に活かす取組の実施地区数を20地区とした目標値やライフキャリア教育に関わる大人の数を1,000人とした目標値に対して、いずれも目標値を大きく上回る結果となりました。昨年に引き続きライフキャリア教育プログラムに多くの大人が関わったことで、様々な場面で多様な価値観に触れる機会を創出することができたところです。これによりアンケート結果からも意識向上を確認することができます。

- ・益田には魅力的な大人が多い 「高校対話+」 実施前 64.9%→実施後 76.6%
- ・益田市には魅力的な事業所があると思う「益田版・職場体験」 実施前 75.6%→実施後 85.1%

また、全国学力・学習状況調査質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」における肯定的回答が小中学生ともに68%以上の目標値についても、目標値を超える成果がみられ、子どもたちの生きる力の育成が図られていることがうかがえます。引き続き、各地域においては公民館の活動やつらうて子育て協議会などの取組を推進するとともに、ライフキャリア教育の充実を図るため、益田市未来の担い手コンソーシアムにて協働的な取組の展開を図っていくこととしています。

益田市未来の担い手コンソーシアム

益田市の未来の担い手を育成するための官民連携の共同事業体で、保幼小中高大などの教育機関、PTA、商工会議所、青年会議所、行政などで構成し、関係者が連携して市が取組むライフキャリア教育を推進します。

重点項目2 地域・世代を越えた学習機会の創出

【取組方針】各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、地域・世代を越えた学習機会と活動づくりを進めます。

⑨ 評価対象事業「地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化」

この事業は、各地区の公民館やつらうて子育て協議会、放課後子ども教室（ボランティアハウス）、地域の任意団体や中間支援組織が、地域の特性やそれぞれの専門性を活かしながら多世代が関わる学習プログラムをつくり、多様な活動や学習機会を提供することを目的としています。

評価対象事業目標として4項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

まず、公民館活動への参加者数に係る目標値やこの参加者数のうち高校生以下の人数に係る目標値の達成状況については、令和5年度の実績に対して増加しているものの目標値を下回る結果となっています。しかしながら、公民館、つらうて子育て協議会、放課後子ども教室（ボランティアハウス）を中心とした野外体験活動や放課後の地域交流など、高齢者や小中高大学生などの異年代、異校種の子ど

も同士の交流活動は展開することができています。これにより、公民館などが多世代に関わることを意識した他団体との連携数については、昨年に引き続き目標値を上回る結果となっています。引き続き、公民館やつろうて子育て協議会が中心となり、他団体と連携した取組を進めつつ、新たな人材・団体の育成・発掘を行っていきます。また、公民館事業の充実を図るため、地域の特性や専門性を活かした取組を目指して、地域間・団体間での連携を図ることとします。

⑩ 評価対象事業「社会教育の推進と活動拠点づくり」

この事業は、各地区の公民館が、「ひとづくり」や地域づくりの拠点となるよう、活動を牽引する人が必要とするスキルの習得をサポートするとともに、公民館の運営を支える体制づくりを行うこととしています。また、社会教育コーディネーターの配置を継続し、未来の担い手育成を意識した世代間交流の取組の充実を図ることなどを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

まず、公民館職員スキルアップ研修参加者数の目標値を180人としたその達成状況については、益田市公民館職員研修プログラム実施要項を策定したことで、研修への参加意識の向上に繋げることができ、目標値を大きく超える結果となったところです。また、社会教育コーディネーターの配置数に係る目標値6名については、社会教育コーディネーターを確保するためにオンライン面談や現地案内を実施したところですが、昨年度同様に目標値に届かなかった結果となっています。また、社会教育コーディネーターが関わった世代間交流の取組数（平均）の目標値に対しては、地区における地域の特色を踏まえた活動を地域住民や中高大学生を巻き込んで取り組むことができたことから、目標値を超える成果をあげることができたところです。今後については、公民館職員の研修を推進する上で、市独自の研修の他、島根県社会教育研修センター等が実施する研修も活用しながら、経験年数に応じて必要な研修を履修できるよう計画することとしています。また、社会教育コーディネーターの人材確保については、ウェブサイト等を活用して広く公募するとともに、大学生インターンや「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」などを通じて、情報発信に努めるとともに、その活動については、引き続き地域の特色を踏まえ、地域住民や学生等を巻き込んだ取組を進めて行くこととします。

重点項目3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進

【取組方針】地域の歴史や文化の保存と調査研究を進めるとともに、その成果や日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源を活用することで、将来へ継承していく機運を醸成します。

⑪ 評価対象事業「豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用」

この事業は、地域の歴史や文化の保存と調査研究を進めるとともに、その成果や日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源を活用することで、将来へ継承していく機運を醸成することを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

まず、市と民間団体等が協働して歴史文化を活かした取組を実施した件数の目標値に係る達成状況については、全国山城サミット益田大会を盛り上げるための取組として、狼煙事業や七尾城「大幟」事業、七尾城環境整備事業など、高校生や連合自治会、商店会、地元建設会社などと連携、協力して取組を進めた結果、目標値を上回る結果となったところです。これにより『山城サミット益田大会』の参加人数も2日間通じて目標値である3,000人を超える9,500人の参加者があり、大きな成果があったところです。また、島根県政世論調査に基づく「文化財の保存・継承・活用に関する市民の満足度」の目標値66%の達成状況については、歴史的建造物でのパペット落語公演や、美濃地屋敷での匹見の神事・芸能公演などに取り組んだところですが、文化財の保存に対し、活用の取組に関する満足度が低い傾向にあることから、わずかながら目標値に達していない結果となっています。

このことから、今後の取組として、引き続き、地域住民が史跡に訪れる機会を創出し、史跡を知ってもらう賑わい創出事業や歴史文化に関係する団体や実行委員会などと連携して協働の取組を進めることとしています。

重点項目 4 食と農への理解の促進

【取組方針】食への感謝の気持ちを醸成するとともに、地域の食文化への認識を高め、食の安心・安全と地産地消に関する理解促進のため、啓発活動などに取り組みます。

⑫ 評価対象事業「学校給食における地産地消と食育の推進」

この事業は、市場関係者などと連携を深めながら、地元食材を活用した学校給食の提供による地産地消に取り組むことを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

高津学校給食センター及び美都学校給食共同調理場における地産地消比率それぞれ40%と60%の維持を目標値とした達成状況については、昨年度に引き続いて国の財源や農林水産課の事業を活用し、益田産の果物、野菜等を積極的に食材として使用してきたところですが、地元生産者の減少や猛暑等の影響により地場産物の調達に苦慮したことから比率の減少となったところです。農林水産課や関係機関との連携による地元食材の購入への調整などを継続していく必要があります。今後の対策としては、引き続き農林水産課との連携や食材を扱う業者との調整により取り組むとともに、生産者の声も聞くことができる場を開催し、地元産の食材を少しでも多く調達できるよう調整していくこととしています。また、栄養教諭及び学校栄養士の食育指導を通じた児童生徒の学校給食献立作成への参加校に関する目標値の達成状況については、栄養教諭等が食育指導を通じて、児童生徒へ積極的に学校給食献立の作成を試みたところですが、他の授業内容を優先したことにより積極的な献立作成に繋がらなかった結果となりました。今後は、栄養教諭等による食の指導とともに献立作成に繋がる授業展開に取り組み、食への関心を一層高める努力を継続して実施していくこととしています。

重点項目 5 生涯スポーツ社会の実現

【取組方針】各施設を活用したスポーツ活動を推進し、地域間交流の機会を創出します。

⑬ 評価対象事業「スポーツ環境の充実」

この事業は、生活に潤いをもたらすスポーツが日々の暮らしの中に取り入れられるように、多様な参加機会の拡充を図り、誰でも参加できる体制づくりを行うことやスポーツ分野における中間支援組織として、一般社団法人益田市スポーツ協会の機能強化を図ることを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

スポーツ施設年間利用者数における目標値の達成状況については、施設の改修や各種大会が東部での開催となった関係で、利用者数が減る結果となりました。更に、2030年開催予定の「島根かみあり国スポ・全スポ」に関して、今後複数の施設改修が見込まれており、その間の活動については検討していく必要があるところです。また、親子いきいき元気プログラムの参加人数における目標値については、前期・後期で各4回実施していますが、期毎の申込みのため参加人数に差が出てしまったことや昨年度のアンケート結果を踏まえて、土日の午前中に開催するよう計画し、申込人数は目標を大きく上回っていましたが、実際の参加人数は前年度を下回る結果となったところです。今後は事務作業効率もふまえ、募集方法等を検討することとしています。一般社団法人益田市スポーツ協会の実施事業数における目標値の達成状況については、僅かに目標値に届かない結果となったところですが、「島根かみあり国スポ・全スポ」の当市開催競技に関する取組を通じて、競技への理解を深めるとともに機運醸成を図っていくこととしています。

重点項目 6 人権の尊重の推進

【取組方針】人権や男女共同参画に対する意識を高め、個性や多様性を認め合うことで、差別や偏見をなくし、誰もが平等に社会参画できる環境をつくります。

⑭ 評価対象事業「人権・同和教育と人権啓発の推進」

この事業は、学校教育と社会教育との連携により、同和問題を始めとした様々な人権問題についての学習会、講演会などを学校や地域、職場において実施し、広く市民の人権問題に対する理解と認識の醸成を図ることを目的としています。

評価対象事業目標として2項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

各地区における人権・同和教育研修会等への参加者数に対する目標値の達成状況については、小中学校や地域の団体等と連携し、人権課題に関する人権研修や人権啓発展示、DVD上映、地域住民の交流事業など、地域の特色を生かしながら人権啓発に取り組んだことが結果に通じたところです。また、人権・同和问题研修会への参加者数の目標値に係る達成状況についても、社会情勢や参加者アンケートから関心のある人権問題をテーマに取り上げることにより目標を上回る多くの方に参加していただくことができたところです。

昨年制定した益田市差別のない人権尊重の社会づくり条例を踏まえ、条例内容の周知を図るとともに、人権を尊重し、個性や多様性を認め支え合う社会の実現に向け、今後も工夫しながら継続して人権教育・啓発の取組を進めていくこととします。

3 点検・評価に対する外部評価委員からの意見

志々田 まなみ（文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官）

本点検・評価報告書では令和3年度（令和2年度事業分）より、新型コロナウイルス感染症による教育環境の変化を注視するため、影響が予想されるデータについては概要欄に特別に掲載してきました。このようなデータ掲載は、今回で最後にしてもよいタイミングに来ているように思います。とはいえ、来年度以降も平均授業時数や平均学校行事時間数、教員における超過勤務時間数、あるいは不登校児童生徒数といった、学校が抱える課題をめぐる諸データ結果については、本点検・評価報告書においては注意が払われ続けることとなるでしょう。そこであえて今回は、長期的な推移をふまえる視点がなければ今後見過ごされてしまいそうなデータとして、文化・スポーツ施設等利用者数や、図書館入館者数のデータについて取り上げ、今年度もいまだに減少が回復していない点について注意喚起をしたいと思います。

例えば、感染症流行前の令和元年度に、益田市における公民館の利用者は年間14万1,582人に上っていましたが、徐々に回復してはいるものの、令和6年度には12万8,419人とまだ1割ほど下回ったままです。また、益田市立図書館（益田）についても、公民館と同様に徐々に回復してきてはいるものの、令和元年度は13万504人の利用があったのが令和6年度は10万6,420人であり、2割ほど利用者が減少した状態となっています。

こうしたデータからは、感染症流行前の学習活動や交流活動、地域活動を取り戻せていない市民の存在が浮かび上がってきます。もちろんすべてが元どおりになる必要はないのかもしれませんが、しかし、ポストコロナ時代という言い回しがあり使われなくなってきた昨今、いま一度、益田市に必要な学びや、つながり、支え合いの拠点の在り方について再点検し、これからについて新たなビジョンを描くタイミングに来ているように感じます。

ちょうど令和7年度には、策定から10年が経過する「教育に関する大綱」に加え、「益田市教育ビジョン」の改定にも同時に取り組む予定であるとお聞きしています。「ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち」にふさわしい教育計画の策定に大きな期待をしているところです。また、それに向けた十分な議論を重ねることを通じて、教育委員会事務局だけでなく一般行政部局との十分な連携の強化や、学校教育だけでなく社会教育や地域活動との豊かな連環を意識した事業開発、さらには子供から大人までが能動的に生きるために自ら学び続けられる支援体制の強化等を、着実に進めていっていただきたいと思います。

その際、「益田市ひとづくり協働構想」でも重視されており、また『「気付きと対話」のある授業づくり推進事業」や「対話プラス」など益田市オリジナルの教育事業名にも用いられている「対話」というワードが、きっと重要な意味を持つように、今回の点検・評価報告書を読んでいて感じました。対話をより実りあるものにするためにも、多様な他者が集い、本音で語り合えるための、教育環境の整備や支援の拡充に、いっそう力を注いでいただきたいと思います、切に願っています。

点検・評価に対する意見

藤井 一成（元益田市立中学校長）

○ 総 括

益田市教育委員会は、6つの重点項目を掲げ、学校や家庭、地域の教育課題の解決に向けて真摯に取り組んでおられる様子を点検・評価報告書から窺い知ることができました。令和6年度事業の点検・評価を、令和7年度以降の益田市教育に十分に活かしていただきたいと思います。

○ 各 論

1 次代を担う人を育てる教育環境の充実

益田市教育委員会の指導及び各学校現場の日頃の取組により、対話による気づきの広がりや深まりのある日々の授業が実践されているように思います。

そのことが、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができたと実感できている児童・生徒が増えていることに表れています。

この取組がさらなる学力向上につながれば、児童・生徒のより広い進路選択につながっていくのではないのでしょうか。

2 地域・世代を越えた学習機会の創出

社会教育コーディネーターを配置し、学校を地域の学びと活動の拠点として、あらゆる世代の学べる場づくりの成果が上がっている反面、社会教育コーディネーターの人材確保に苦労されているように思います。

つろうて子育て協議会や公民館が主体となり、子どもたちが学校の学びを地域活動に活かすことはすばらしい取組だと思いますので、地域づくりとひとづくりが両輪となり、地域・世代を越えた学習機会と活動づくり支援をさらに行ってください。

3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進

全国山城サミット益田大会の成功は素晴らしいと思います。これを機に、地域住民が史跡に訪れる機会が増え、史跡を知ってもらう創出事業や歴史文化に関係した団体との連携した取組がさらに進んでいくことに期待しています。

4 食と農への理解の促進

児童・生徒が給食を通じ、益田地域の自然環境・食文化・生産者等への理解を深め、食べ物への感謝の気持ちと地域づくりへの関心を持つことは、ふるさと教育の推進にとっては大変重要なことと思います。評価(C)にも表れていますが、児童・生徒の学校給食献立等、食への関心の喚起をさらに高める取組を継続してください。

5 生涯スポーツ社会の実現

スポーツ施設年間利用者数の増加を含めて、多様な参加機会の拡充を図り、誰もが参加できる生涯スポーツの体制づくりを今後とも進めてください。

令和12年度には、「島根かみあり国スポ・全スポ」の開催も予定されており、さらなるスポーツ環境の充実の機運醸成へとつながっていけばと思います。

6 人権の尊重の推進

人権問題をテーマに取り上げた研修会の参加者数が目標値を大きく上回ったことは、素晴らしいと思います。

学校・職場・地域での活動を通して、互いの存在を大切にし、人間関係をつくり出すなかまづくり・集団づくりが、今後さらに必要になってくると思います。その意味で人権・同和教育研修会参加のさらなる呼びかけ、行動は大切です。益田市民に届く人権啓発を今後とも取り組んでいってください。

点検・評価に関する意見

村上 護（元益田市立小学校長）

○ 総 括

益田市の地域社会・学校・家庭の実態や課題、特性を踏まえ、益田市教育委員会の施策について、豊富なデータと細かな分析に基づいて、概ね十分な点検・評価がなされていると思われます。

今年度の点検・評価が今後の益田市教育委員会の全ての施策の継続・見直し・展開に役立てられていくことを望みます。

○ 各 論

1 A評価の目標どおりの成果があった3事業（6，8，14）について

この3つの事業は、「心を育てる」「生きる力の育成」「人権・同和教育」など、人の情意に関することを評価しています。6と8については、益田市の歴史の魅力を再発見したり、大人との関わりを大切にした益田市ならではの事業を行ったりし、それに対する児童生徒の意識の変容を問う評価がなされています。

しかし、14については、事業への参加者数だけで評価されており、評価したいことが適切に評価されているのか検討の余地があると考えます。

2 B評価の高い成果があった8事業（1，2，3，5，7，9，10，11）について

主に子どもの学力育成に関わる事業であり、市民の関心も高いと思います。学力調査の点数だけでなく、児童・生徒の意識調査を大切にしている点、学校に行けない児童・生徒への関わりも大切にしている点も含めて評価されている点はとても重要であると考えます。

また、ひとづくりの継続した取組も充実してきており、より高いレベルの成果・評価を求め続けていくことは困難であるかもしれません。これらの事業の関係者の方々が、第一線で誇りを持って継続して取り組んでいただけるように、フィードバックできればよいと考えます。

3 C評価の一定の成果があった事業（4，12，13）

12，13は、天候不良や施設改修・大会開催地などの影響を受けた結果とのことであるが、それらが事業目標として適切なものなのか検討の余地があるのではないかと考えます。

点検・評価に対する意見

豊田 美絵（保護者代表（中西中学校PTA副会長））

○ 総 括

今年度も引き続き保護者代表として外部評価委員を務めることとなりました。昨年度同様に保護者の観点と母親の観点の両面から市教育委員会事業にかかる点検・評価に対して気づいた点を意見として述べさせていただきます。

令和6年度事業に関しては、益田市「教育に関する大綱」に掲げた重点項目及び「令和6年度の施政方針」並びに「令和6年度教育行政の取組について」に掲げた重点項目を踏まえ、目標に掲げた14の評価対象事業に関し、外部評価委員会を通じて何点か感じたことを申し述べることにします。これらを基に令和7年度事業において、より多くの成果が得られていくことを期待します。

○ 各 論

1 子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進（いじめ未然防止の組織的な取組）

不登校及び不登校傾向の児童生徒と関係機関との連携実績は高い実績となっていますが、対話と不登校がイコールと捉えられそうな表現があることを指摘させていただきました。不登校及び不登校傾向の児童生徒は、教員との「対話」はあっても、児童生徒同士の「対話」についてはほぼ行わないと考えます。このような児童生徒も安心して生活できる環境づくりに関し、さらなる改善を行っていくことが必要と感じます。

2 ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成

ライフキャリア教育に関わる大人が昨年に比べると減ってはいるものの、依然として多くの大人のかかわりにより、これから子どもたちの未来が大きく変わっていくことを確信しています。高校対話プラスや益田版・職場体験のアンケート結果からみても、益田に魅力を感じてくれていると実感できますし、なにより子どもたちと大人たちが語り合う時間は、このまちの未来も拓けていくような感覚を覚えます。引き続き事業を継続していただき、より良いひとづくりにつなげていただきたいと思います。

3 学校給食における地産地消と食育の推進

令和7年度より給食費の改定が行われたところですが、子どもたちの成長に欠かせない学校給食が多くの関係者の努力によって、子どもたちに提供されていることに深く感謝をしています。この事業の中では地産地消比率を目標に掲げられていますが、市内における野菜などの生産者が減っている状況や天候などにより生産量についても減少している中で、この比率を高めていくことが難しい環境ではないかと感じています。今後は目標設定も考えながら、子どもたちが食材を生産することへの変容などに理解を深めるとともに、食への関心を更に持ってもらえるような取組に期待したいと思います。

4 外部評価委員会を終えて

本年も7月と8月に開催しました外部評価委員会では、教育行政に係る具体施策である14の評価対象事業に関する自己評価（教育委員会事務局が事前に実施する評価）について、令和5年度及び令和6年度事業分の評価項目に対する目標、実績、達成率、評価点を比較できるようにまとめるとともに令和7年度事業分の目標を盛り込んだ資料を添付することで、各年度との比較を進めながら評価を頂きました。

点検評価報告書の内容に関しては、これまで新型コロナウイルス感染症による教育環境への変化を注視するため、影響が予想されるデータの比較を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へと移行して2年が経過したことから、今回を最後として掲載いたしました。学校生活における平均授業時数や平均学校行事時間数など学校生活における学習や生活に関する実態から社会教育施設の活用状況に至るまで教育環境に係る事項を年度間で比較することにより、新型コロナウイルス感染症というパンデミックが本市の教育に与えた影響を記録として残すことができたと考えています。

また、全国的な課題である少子化の進行や教職員の多忙化に伴う教育環境の確保、学力育成や生活習慣における個々の課題などが叫ばれる中で、学校教育の観点ではICT機器を活用した新しい学びが進む一方、学力は県学力調査結果における各教科の正答率が、令和6年度においても、ほとんどの科目で県平均を下回っている結果となりました。しかし、何をもって児童生徒の学力向上と捉えるかが必要であり、新たな考えに気づいたりすることができたと実感できている児童生徒が増えているので、学習の力は上がっているのではないかとご意見を頂きました。

ライフキャリア教育においては、これまでの取組に対しての評価を頂いたとともに、高校対話+や益田版・職場体験のアンケート結果からみても、益田に魅力を感じてくれていると実感できるとの評価から、引き続き各地域においては公民館の活動やつろうて子育て協議会などの取組を推進し、益田市未来の担い手コンソーシアムにて協働的な取組の展開を図っていくようにとのご意見を頂きました。

文化振興の観点においては、昨年度目標を大きく上回る成果となった「全国山城サミット益田大会」の取組を踏まえ、本市にある重要な歴史・文化資源を活用した取組とそれに付随する目標設定を行い、ふるさとに誇りの持てる地域教育の実践に向けたご意見を頂いたところです。

その他の事業については、成果がきちんと現れている状況から、事業を継続し、必要に応じて事業の改善・拡充を検討するようにとのご意見を受けたところです。

令和7年度には、本市の最上位計画である益田市総合振興計画後期基本計画や本市の教育施策の柱となる益田市教育に関する大綱、本市の教育に対する考え方や事業の進め方などを盛り込んだ益田市教育ビジョンの見直しに着手しており、これらの内容を踏まえて各種の事業を行うこととなります。事業の管理及び執行にあたっては今後もこの点検・評価を通して、教育委員会が行う事業の実態を把握し、教育に関する知見を有する者等による外部評価委員会を有効に活用して、本市の教育の振興に努めていきたいと考えております。

最後に、点検評価に対して、貴重なご意見・ご提言をいただきました外部評価委員の皆様に心より感謝申し上げます。

資料編

【資料1】 令和6年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート

【資料2】 令和7年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート

【資料3】 令和7年度益田市の教育の概要

令和6年度
益田市教育委員会
事務事業別点検・評価シート

※評価点、自己評価の積算方法

これまで、評価対象事業目標の達成に向けた取組状況を進捗率として評価する進捗率評価点と評価対象事業目標に対する実績（達成状況）を達成率として評価する達成率評価点を算出し、その点数の合計点を自己評価としていましたが、令和5年度の点検評価より、下記に基づきシンプルに自己評価を行うこととします。

1 評価点の積算方法

評価対象事業目標毎に実績を考慮して評価点を算出します。

評価点	採点	達成状況
	4点	100%（標準点）
	3点	99.9%～80.0%
	2点	79.9%～50.0%
	1点	49.9%～1.0%
	0点	1.0%未満

※ 評価点の求め方

例) 評価対象事業目標数値が80%以上を設定し、当該年度の実績値として81%だった場合の評価点の求め方

A) 目標を達成しているので達成状況が100%であり**4点**を算出。

例) 評価対象事業目標数値が小学校80%以上、中学校75%以上を設定し、当該年度の実績値として小学校81%、中学校70%であった場合の評価点の求め方

A) 小学校80%+中学校75%=155・・・>（目標値総数）

小学校81%+中学校70%=151・・・>（実績値総数）

$((\text{実績値総数}) / (\text{目標値総数})) \times 100 = 97.41 \dots > \mathbf{3点}$

例) 評価対象事業目標数値を+1ポイントの上昇として設定し、前年実績より上昇した場合と下降した場合の評価点の求め方（事業番号②）

A) 上昇した場合は達成に応じ割合を算出し、下降した場合は0%となり0点。

2 自己評価の積算方法

上記により項目別に出した評価点の合計数値を分子とし、評価対象事業目標項目数×4点（標準点）を分母として、分子を分母で割って求めた値（自己評価計数）を基に下記の表に基づき自己評価の数値を積算します。

※ 自己評価の求め方

例) 目標項目数が4項目あり、3項目が3点、1項目が4点であった場合の自己評価の求め方

A) 4項目×4点=16点を分母

(3項目×3点)+(1項目×4点)=13点を分子

よって、次の数式：13点/16点×100により「**81.3（点）**」※小数点第2位以下切り上げ」が自己評価計数となる。この数値を下記に照らし自己評価とします。

自己評価	自己評価計数	評価対象事業に対する自己評価
A	100点	目標どおりの成果があった
B	99.9点～80.0点	目標には届かないが高い成果があった
C	79.9点～50.0点	一定の成果があった
D	49.9点～25.0点	期待した成果が認められなかった
E	24.9点以下	見直しの必要性がある

※上記の場合、自己評価計数81.3点より、自己評価区分は「B」、自己評価は「目標には届かないが高い成果があった」となる。

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		地域ぐるみでの教育の推進 （保護者と連携したメディアコントロールの取組）	事業実施方法	学校指導	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	①	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1①		
施 策 内 容		児童・生徒、保護者などが正しい情報活用能力を身に付けられるよう、メディアコントロール、情報リテラシーに関する取組を強化する。			
評価対象事業目標			評価対象事業実績		評価点
① 島根県学力調査質問紙「普段、1日あたり4時間以上テレビゲームをしている」割合 小学生20%以下、中学生15%以下（R5実績：小学生20%、中学生18%）			① 小学生19%、中学生19% 98.9%		3
② 島根県学力調査質問紙「普段、1日当たり4時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する」割合 小学生15%以下、中学生15%以下（R5実績：小学生19%、中学生20%）			② 小学生17%、中学生22% 98.7%		3
③ 市教委主催の情報モラル教育研修会の参加保護者のアンケートにて、「研修内容を今後の子どもとの関わりや取組等に活かしていきたいと思う」に関する肯定的回答95%以上（R5実績：91%）			③ 100% 100%		4
④ 市教委主催の情報モラル教育研修会の参加保護者のアンケートにて、「学校ではPTAと連携したメディアコントロールの取組を行っている」の肯定的回答 90%以上（R5実績：87.5%）			③ 90% 100%		4
事 業 成 果		情報モラル教育研修会での保護者アンケート調査については、概ね目標値に達している。ただし、参加者が40名程度と期待していた参加者数ではなかった。学校とPTAが連携したメディアコントロールの取組は、設定された取組期間では、各家庭で意識されているものの、それ以外の期間では取組が低調となる傾向にある。			
改 善 事 項 又 は 課 題		ゲーム利用は昨年度と同等であるが、スマートフォン等の利用時間は中学生で増加している。スマートフォン等の利用時間が長い児童生徒の割合は年々増加の一途をたどっている。情報リテラシーを進めると同時に情報モラルについて啓発を更に行っていく必要がある。			
今後の方向性		情報リテラシーや情報モラルについては、授業等で理解を深める。研修会は益田市内の各学校で専門家を招いて実施中である。保護者と一緒に研修を行う学校もあるが、多くは児童生徒を対象とした学校が多い。一般市民向けの情報モラル研修会を今年度も12月に開催予定であり、参集と動画配信の2つの方法で実施する予定である。就学時健診でも保護者を対象に、メディア接触のルールを家庭で作るよう啓発を行う。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		確かな学力の向上を目指した教育の推進	事業実施方法	学校指導	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	②	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1②		
施 策 内 容		「気付きと対話」のある授業づくり推進事業を進めながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視した授業の実践を全ての小中学校で行う。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 全国学力・学習状況調査質問紙「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができている」の割合 小学生80%以上 中学生85%以上		① 小学生80%、中学生87% 100%		4	
② 島根県学力調査の平均正答率と目標値との差の経年比較（小5→小6 中1→中2）+1ポイントの上昇 （R5実績：小5 2教科平均-5、中1 3教科平均-2.7）		② 小6 2教科平均-3.2 中2 3教科平均-8.4 50.0%		2	
③ 全国学力・学習状況調査質問紙「国語の勉強が好きだ」「算数・数学の勉強が好きだ」の割合 小学生57%以上 中学生66%以上 （R5実績：小学生54%、中学生63%）		③ 小学生53%、中学生61% 92.7%		3	
④ 市独自アンケート「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」における割合 小学校75%以上 中学校70%以上 （R5実績：小学校74% 中学校67%）		④ 小学生81%、中学生79% 100%		4	
事 業 成 果		話し合いに関する意識調査は目標値に達した。児童生徒の多くが、対話による気付きの広がりや深まりを実感できている。今後も「気付きと対話」のある授業づくりを推進しながら授業改善を図る。「難しいことでも挑戦している」の目標値に達している。			
改 善 事 項 又 は 課 題		島根県学力調査の目標値との差は小学校では達成できたが、中学校では達成できなかった。「国語、算数・数学が好き」の数値も目標値に達しなかった。			
今後の方向性		学力育成の取組は、授業改善以外にない。問題を解決するための思考力や判断力、表現力、社会で生きていくために必要な知識、技能を身につけることは、教授型の授業ではできない。そのため、「気付きと対話」のある授業づくりを推進し、学校訪問や授業公開・研究協議に取り組みながら、授業改善につなげ、学力育成につなげていく。また、学習者が主体となる授業づくりを進めることで、各教科への興味・関心を更に高めていきたい。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		確かな学力の向上を目指した教育の推進と子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進	事業実施方法	学校指導	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	③	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1②③		
施 策 内 容		電子黒板や一人一台端末等、ICT機器を活用した学びの推進や、校種間連携等の多様な取組を通して、子どもの学力向上を図る。また、保幼小中高のつながりを一層深め、各年代の教育の充実を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 授業におけるICT機器の1日1回以上の活用している教員の割合 小学校85%以上 中学校95%以上		① 小学校93%、中学校100% 100%		4	
② 保幼小連携協議会研修会におけるアンケート「小学校1年生の7月までの姿を理解したり共有化したりできている」の肯定的回答 95%以上 (R5実績：90%)		② 88% 92.6%		3	
③ 各中学校区内における小中一貫教育に基づいた授業者間交流：24校実施 (R5実績：22校実施)		③ 24校実施 100%		4	
事 業 成 果		学校では、1人1台端末を含めたICT機器の活用が進み、1日1回以上の活用が進んでいる。小中連携は中学校区で授業者間交流が進んでいる。			
改 善 事 項 又 は 課 題		「保幼小連携」は88%と高い数値ではあるが、目標値に達しなかった。ただし、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」の中で5つのステップ（ステップ0～4）が設定されており、小学校15校中14校がステップ4ないし3であり、充実した交流活動等が取り組まれている。今後も各小学校区での活動を充実させていくことで、意識を高めていきたい。			
今後の方向性		ICT機器の活用を今後も推進し、教員の割合を更に高めていきたい。併せて児童生徒の一人一台端末の活用も、指導主事による学校訪問や研修会を開催しながら推進していきたい。「保幼小連絡協議会研修会（今年度より幼小連絡協議会研修会）」を引き続き開催し、保幼小等の施設と小学校との交流活動も継続する。小中一貫教育は、今後中学校区で授業を公開し、小中の教員が同じ授業を見て研究協議を行い、中学校区で授業改善を進めたり、小中を通した児童生徒像を共有する取組を実施する。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進 （いじめ未然防止の組織的な取組）	事業実施方法	学校指導	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	④	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1③		
施 策 内 容		児童・生徒への個別支援に丁寧に取り組む。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 全国学力・学習状況調査質問紙「先生はあなたの良いところを認めてくれている」における肯定的回答 小中学生ともに90%以上 （R5実績：小学生88%、中学生91%）		① 小学生90%、中学生89% 99.4%		3	
② 全国学力・学習状況調査質問紙「学校に行くのは楽しいと思う」における肯定的回答 小中学生ともに80%以上 （R5実績：小学生80%、中学生80%）		② 小学生77%、中学生81% 98.8%		3	
③ 不登校及び不登校傾向児童生徒と関係 諸機関との連携実績 100% （R5実績：95%）		③ 93%（小学生91% 中学生94%） 93%		3	
事 業 成 果		「先生に認められている」はほぼ目標値に達し、「学校に行くのは楽しい」もほぼ目標値に達成している。「あったか強い益田っ子」を目標とした生徒指導推進プランを継続して各校で取り組み、「子どもが育つ人間関係」づくりを推進していく。			
改 善 事 項 又 は 課 題		不登校及び不登校傾向児童生徒と関係機関との連携は93%と高く、他の市町と比較しても高い数値である。目標設定に課題があった。			
今後の方向性		引き続き生徒指導推進プランを設け、市内各校で対話を大切にしながら人間関係の構築を進めている。授業改善を促すとともに、教師と児童生徒との信頼関係を醸成するような研修の機会を引き続き設定する。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
C	一定の成果があった

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		益田市型中高一貫教育の推進	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑤	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1⑧		
施 策 内 容		理数教育の充実をはじめ確かな学力の育成等の中軸とする「益田市型中高一貫教育」の実現に向けた取組を推進する。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 中高連携学力育成推進事業における参加者アンケート「自ら進んで学習する意識が高まった」の肯定的回答 80%以上 (R5実績：79%)		① 87% 100%		4	
② 島根大学と協働実施する「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートにおいて、「難しい問題にもチャレンジしたい気持ちが、参加する前よりも強くなった」の肯定的回答 95% (R5実績：91%)		② 90% 94.7%		3	
③ 「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートにおいて、「大学生や学生に対するあこがれが強くなった」の肯定的回答95%以上 (R5実績：95%)		③ 93% 97.9%		3	
事 業 成 果		中高連携学力育成推進事業のアンケートでは「友達と楽しく勉強したい」の割合が減り、「学校の宿題がしたい」「授業の復習がしたい」の割合が増え、「楽しさ」より「課題達成・学習の実用性重視」に意識が変わってきている。「パワーアップ教室」に複数回参加している児童生徒の参加理由の中に「学生に会いたい」と回答するものも多く、学生との交流から「学生へのあこがれ」へとつながっていると思われる。			
改 善 事 項 又 は 課 題		「算数・数学パワーアップ教室」については、年々参加者が増加しており、よりきめ細かな指導を行うために講師役の大学生を確保する必要がある。			
今後の方向性		「算数・数学パワーアップ教室」の講師役大学生を確保するため、令和7年度より島根大学教育学部の1000時間体験学修にエントリーする。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。			
具 体 施 策		ふるさとを愛し、誇りを持つ心を育てる教育の推進	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑥	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1④		
施 策 内 容		日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源について、子どもたちが関心を持ち、さらに理解を深めるために社会科見学の受入れや出前授業などの学習支援を継続し、ふるさとに誇りの持てる地域教育を実践する。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 「益田市の歴史文化は魅力的で誇りに思う」と回答した割合 小学生75%、中学生65% (R5実績:小学生69%、中学生61%)		① 小学生83.7% 中学生81.4% 全国山城サミット益田大会などを通して、大会に向けての機運醸成や大会当日など山城や中世益田の文化遺産に触れる機会を持つことができた。		4	
② 市内小中学校の社会科見学の受入れや出前講座の件数 小中学校で15件 (R5実績:社会科見学1件、出前講座5件)		② 29件（社会科見学12件、出前講座17件） 都茂小、東仙道小学校の発掘体験や小野中の総合的な学習「中世益田の歴史について」現地見学会、益田市歴史文化交流館（れきしーな）の企画展への現地見学など		100% 4	
③		③		100%	
事 業 成 果		校区内に日本遺産の構成文化財が数多くある益田東中学校の「日本遺産スタンプラリー」の取組や益田小学校では、総合的な学習の時間を利用し、校区内の文化財を訪ねたフィールドワークなど中世の益田を題材とした教材を授業に取り入れる取組が少しずつ増えてきている。			
改 善 事 項 又 は 課 題		他の小中学校においてもそれぞれに地域学習、歴史学習に取り組んでいるが、児童生徒がより一層郷土愛を育んでいけるよう地域の歴史や文化に触れ、学ぶ機会を作っていく必要がある。歴史文化の普及啓発が必要である。			
今後の方向性		今後も歴史文化の普及や歴史文化遺産の啓発を推進するために学校と連携として、社会科見学や出前講座等の学習支援を継続して行う。また、地域と連携しての講演会や現地見学会などに対して講師派遣を行う。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
A	目標どおりの成果があった

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。			
具 体 施 策		教育環境の整備・活用	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑦	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1⑥		
施 策 内 容		児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう「学校施設整備計画」などに基づき、施設の耐震化や学校トイレの改修などを進め、老朽化の進む施設の計画的な整備を行う。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
①	益田中学校渡廊下改修工事の実施及び戸田小学校の移転改修の実施による学校施設耐震化率 98%以上 (R5実績:95.7%)	①	97.1%	99.1%	3
②	市内中学校3校の学校トイレ改修実施 対象校：高津中、東陽中、中西中	②	100%	100%	4
③	老朽化の進む屋外で使用する教具・遊具の計画的な更新 教具・遊具：6か所	③	100%	100%	4
事 業 成 果		学校施設耐震化率については、益田中学校渡廊下改修工事2棟の内、令和6年度に1棟完了したが、もう1棟については国補助金の交付決定が遅れたことにより令和7年度への繰越事業となった。学校トイレの改修及び教具・遊具の計画的な更新については、予定していた工事すべてを年度内に完了することができた。			
改 善 事 項 又 は 課 題		学校施設の耐震化率については、令和8年度に実施予定である戸田小学校の小野中学校校舎への移転により完了の予定となる。しかしながら、小野中学校の改修や学校トイレの改修については、国補助金活用事業であることから、その採択の有無により、事業の執行遅れが懸念される。			
今後の方向性		学校トイレ改修については、整備計画に沿い継続的に実施する。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。			
具 体 施 策		ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成	事業実施方法	その他	
			事業実施方法での特記事項	学校及び市内事業者等との連携・協働	
事業番号	⑧	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1⑦		
施 策 内 容		「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや、生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 学校の学びを地域活動に活かす取組の実施地区数 20地区（R5実績:20地区）		① 20地区（市内の公民館単位全地区において、ふるさと教育推進事業補助金を活用した取組を実施） 100%		4	
② ライフキャリア教育に関わる大人の数 1,000人（R5実績:4,542人）		② 4,072人（対話プラスキャスト291人、サードプレイス2,503人、新職場体験1,278人） 100%		4	
③ 全国学力・学習状況調査質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたと思う」における肯定的回答 小中学生ともに68%以上（R5実績：小学生64.6%、中学生62.9%）		③ 小学生73.7%、中学生79.0% 100%		4	
事 業 成 果		公民館の活動やつらうて子育て協議会などの取組により、地域を活動拠点とした長期休暇における体験教室や交流事業など、市内全域で学校の学びを地域活動に活かす取組が実施できた。また、ライフキャリア教育プログラムに多くの大人が関わったことで、様々な場面で多様な価値観に触れる機会を創出することができた。 <意識変容> ・益田には魅力的な大人が多い 「高校対話＋」 実施前64.9%→実施後76.6% ・益田市には魅力的な事業所があると思う 「益田版・職場体験」 実施前75.6%→実施後85.1%			
改 善 事 項 又 は 課 題		関わる大人を増やしていくために、益田市未来の担い手コンソーシアムにおいて、取組の協働化を図り、39のライフキャリア教育プログラムが展開されている。			
今後の方向性		引き続き、各地域においては公民館の活動や、つらうて子育て協議会などの取組を推進するとともに、ライフキャリア教育の充実を図るため、益田市未来の担い手コンソーシアムにおいて、協働的な取組の展開を図る。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
A	目標どおりの成果があった

基 本 施 策		2 地域・世代を越えた学習機会の創出			
取 組 方 針		各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、地域・世代を越えた学習機会と活動づくりを進めます。			
具 体 施 策		地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化	事業実施方法	その他	
			事業実施方法での特記事項	公民館及び地域団体等との連携・協働	
事業番号	⑨	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ2①		
施 策 内 容		各地区の公民館や地区つろうて子育て協議会、地域の任意団体や中間支援組織が、地域の特性やそれぞれの専門性を活かしながら多世代が関わる学習プログラムをつくり、多様な活動や学習機会を提供する。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績			評価点
① 公民館活動の参加者数 141,000人（R5実績：120,442人）		① 益田地域 112,764人 美都地域 8,987人 匹見地域 6,668人 合 計 128,419人	91.1%	3	
② 公民館活動の参加者数のうち高校生以下の数 21,000人（R5実績：18,632人）		② 益田地域 16,608人 美都地域 1,789人 匹見地域 637人 合 計 19,034人	90.6%	3	
③ 公民館などが、多世代に関わることを意識した他団体との連携数 12（R5実績：23）		③ 益田地域 17（うち、2つは益田匹見合同） 美都地域 4 匹見地域 3 合 計 24	100%	4	
④ 公民館などが、多世代に関わることを意識した学習プログラム実施数 80回（R5実績：98回）		④ 益田地域 55回 美都地域 11回 匹見地域 5回 合 計 71回	88.8%	3	
事 業 成 果		公民館やつろうて子育て協議会、放課後子ども教室（ボランティアハウス）を中心に、野外体験活動や放課後の地域交流など、高齢者や小中高大学生などの異年代、異校種の子ども同士の交流活動を展開することができた。他団体との連携により、それぞれの専門性や強みを活かすことでプログラム内容の充実が図られたほか、子どもたちが積極的に公民館活動等に参加する傾向が見られ始めた。			
改 善 事 項 又 は 課 題		活動団体の固定化が見られることから、新たな人材・団体の発掘・育成が必要。また、公民館活動の参加者を増やすため、取組の情報発信と魅力的な活動の創出が求められる。			
今後の方向性		引き続き公民館やつろうて子育て協議会が中心となり、他団体と連携した取組と情報発信を進めつつ、新たな人材・団体の育成・発掘を行う。また、公民館事業の充実を図るため、地域の特性や専門性を活かした取組を目指して、地域間・団体間での連携を図る。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		2 地域・世代を越えた学習機会の創出		
取 組 方 針		各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、地域・世代を越えた学習機会と活動づくりを進めます。		
具 体 施 策		社会教育の推進と活動拠点づくり	事業実施方法	業務委託等
			事業実施方法での特記事項	運営協議会を設置した小学校へ配置
事業番号	⑩	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ2③	
施 策 内 容		各地区の公民館が、「ひとづくり」や地域づくりの拠点となるよう、活動を牽引する人が必要とするスキルの習得をサポートするとともに、公民館の運営を支える体制づくりを行う。また、社会教育コーディネーターの配置を継続し、未来の担い手育成を意識した世代間交流の取組の充実を図る。		
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 公民館職員スキルアップ研修参加者数 180人（R5実績：99人）		① 301人（社会教育基礎講座12、公民館職員等専門研修11、コーディネーター研修11、ファシリテーター養成講座1、新任職員研修7、公民館職員研修106、地域づくり勉強会32、県公民館研究集会6、中四国公民館研修集会7、振興大会31、人権研修77）	100%	4
② 社会教育コーディネーター配置数 6名（R5実績：5名）		② 4名（益田小、豊川小、真砂小、西益田小）	66.7%	2
③ 社会教育コーディネーターが関わった世代間交流の取組数（平均） 68件（R5実績：64件）		③ 77件（益田小95件、豊川小62件、真砂小52件、西益田小99件）	100%	4
④		④		
事 業 成 果		益田市公民館職員研修プログラム実施要項に基づき、計画的に研修に取り組むことができた。また、社会教育コーディネーターを確保するため、オンライン面談や現地案内を実施した。社会教育コーディネーターが関わった世代間交流については、各地区において地域の特色を踏まえた活動を、地域住民や中高大学生を巻き込み取り組むことができた。		
改 善 事 項 又 は 課 題		公民館職員の研修については、益田市公民館職員研修プログラム実施要項を策定したことで、研修への参加意識の向上に繋げることができた。社会教育コーディネーターについては、必要数を配置することができなかった。社会教育コーディネーターが関わった世代間交流については、活動協力者の固定化が見られることから、新たな人材の発掘が必要。		
今後の方向性		公民館職員の研修については、市独自の研修の他、島根県社会教育研修センター等が実施する研修も活用しながら、経験年数に応じて必要な研修を履修できるよう計画する。社会教育コーディネーターの人材確保については、ウェブサイト等を活用して広く公募するとともに、大学生インターンや「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」などを通じて、情報発信に努める。社会教育コーディネーターの活動については、引き続き地域の特色を踏まえ、地域住民や学生等を巻き込み取組を行う。		
その他参考となるべき事項				

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進			
取 組 方 針		地域の歴史や文化の保存と調査研究を進めるとともに、その成果や日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源を活用することで、将来へ継承していく機運を醸成します。			
具 体 施 策		豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑪	施策体系	第6次総合振興計画基本目標Ⅱ3①		
施 策 内 容		地域の歴史や文化の保存と調査研究を進めるとともに、その成果や日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源を活用することで、将来へ継承していく機運を醸成する。 国の追加指定を受けた中須保育所跡地の公有化を行う。また、三宅御土居跡の更なる利活用を図るために、主郭部西側の造成工事の整備を行う。老朽化が目立ってきている「益田市立雪舟の郷記念館」の改修をするため、「雪舟の郷記念館整備事業」を実施する。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 市と民間団体等が協働して歴史文化を活かした取組を実施した件数 10件/年（R5実績:18件）		19件/年 山城サミットを盛り上げるための取組として、狼煙事業や、七尾城「大幟」事業、七尾城環境整備事業など、高校生や連合自治会、商店会、地元建設会社など連携、協力してを取組を進めた。		4	
		100%			
② 島根県政世論調査に基づく「文化財の保存・継承・活用に関する市民の満足度」66%（R5実績:64%）		64.5% 歴史的建造物でのパペット落語公演や、美濃地屋敷での匹見の神事・芸能公演。文化遺産活用パートナーの育成として、ナビゲーター養成講座や鮎だし雑煮普及。		3	
		97.7%			
③ 『山城サミット益田大会』参加人数 2日間通じて3,000人以上		9,500人 ③ シンポジウム 1,500人 中世益田ビッグフェスタ 8,000人		4	
		100%			
事 業 成 果		全国山城サミット益田大会や「益田市文化財保存活用地域計画」関連事業などの実施により本市の歴史文化の普及や歴史文化遺産による啓発が進み、歴史文化を活かした地域活性化の取組が民間主導・官民連携で進んでいる。また、中須保育所跡地の公有化や三宅御土居跡のさらなる利活用を図るために、主郭部西側の造成工事の整備、「益田市立雪舟の郷記念館」の改修をするための「雪舟の郷記念館整備事業」など順調に進めている。			
改 善 事 項 又 は 課 題		今回の協働の取組を維持しつつ、より一層の拡大に向けた取組体制の構築が課題である。文化財の保存、活用の取組を益田市全体の取組に繋げていく。			
今後の方向性		引き続き、地域住民が史跡に訪れる機会を創出し、史跡を知ってもらう賑わい創出事業や歴史文化に関係する団体や実行委員会などと連携して協働の取組を進める。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		4 食と農への理解の促進			
取 組 方 針		食への感謝の気持ちを醸成するとともに、地域の食文化への認識を高め、食の安心・安全と地産地消に関する理解促進のため、啓発活動などに取り組みます。			
具 体 施 策		学校給食における地産地消と食育の推進	事業実施方法	その他	
			事業実施方法での特記事項	市場関係者及び市農林水産課、学校との協議調整	
事業番号	⑫	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ4③		
施 策 内 容		市場関係者などと連携を深めながら、地元食材を活用した学校給食の提供による地産地消に取り組む。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 高津学校給食センター 地産地消比率40%維持(副食重量ベース) (R5高津実績:40.20%)		① 令和6年度実績 37.27% 益田市(高津・美都)計38.69%		93.2% 3	
② 美都学校給食共同調理場 地産地消比率60%維持(副食重量ベース) (R5美都実績:71.84%)		② 令和6年度実績 71.54% 益田市(高津・美都)計41.46%		100% 4	
③ 栄養教諭及び学校栄養士の食育指導を通じた児童生徒の学校給食献立作成への参加校10校 (R5実績:10校)		③ 令和6年度実績 6校		60% 2	
事 業 成 果		食育の取組としては、昨年度に引き続いて国の財源や農林水産課の事業を活用し、益田産の果物、野菜等を積極的に食材として使用した。地元生産者の減少や猛暑等の影響により地場産物の調達に苦慮したことから比率の減少となったが、そのような中でも、地元の松永牧場と全国肉牛事業協同組合より地元で育った牛からとれた牛肉の提供を受け、すき焼き丼を提供することができた。栄養教諭等による食育指導の実績は前年度より増加したものの、児童生徒の献立作成については、他の授業内容を優先したことにより積極的な献立作成に繋がらなかった結果となった。			
改 善 事 項 又 は 課 題		令和7年度からは給食費を改定することとなるが、主食である米の高騰や調味料を含む食材の高騰が続くことが予想される。農林水産課や関係機関との連携による地元食材の購入への調整などを継続していく必要がある。献立作成については、栄養教諭による食の指導において献立作成に繋がる授業展開に取り組む必要がある。			
今後の方向性		地産地消は引き続き農林水産課との連携や食材を扱う業者との調整により取り組むとともに、生産者の声も聞くことができる場を設定する必要がある。また、児童生徒による献立作成などを通じて、食への関心の喚起に努めていく。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
C	一定の成果があった

基 本 施 策		5 生涯スポーツ社会の実現			
取 組 方 針		各施設を活用したスポーツ活動を推進し、地域間交流の機会を創出します。			
具 体 施 策		スポーツ環境の充実	事業実施方法	その他	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑬	施策体系	第6次総合振興計画Ⅱ5①		
施 策 内 容		生活に潤いをもたらすスポーツが日々の暮らしの中に取り入れられるように、多様な参加機会の拡充を図り、誰でも参加できる体制づくりを行う。また、スポーツ分野における中間支援組織として、一般社団法人益田市スポーツ協会の機能強化を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① スポーツ施設年間利用者数 220,000人（R5実績：216,049人）		① 201,974人 ・益田運動公園 144,249人 ・ひだまりパーク 55,205人 ・匹見中央公園 2,520人	91.8%	3	
② 親子いきいき元気プログラムの参加人数 250人（R5実績：201人）		② 178人 （うち、子ども102人、大人76人） ・6月から2月まで計8回開催	71.2%	2	
③ 一般社団法人益田市スポーツ協会の実施事業数 12件（R5実績：10件）		③ 11件 ・指導者講習会（2月、参加者110人） ・高槻市都市交流事業（サッカー） ・大学生との交流事業 （広島市都市学園大学バスケットボール部）	91.7%	3	
事 業 成 果		「親子いきいき元気プログラム」について、昨年度のアンケート結果をふまえ、土日の午前中に開催した。このことにより申込人数は目標を大きく上回っていた（前期・後期延べ人数：356人）が、実際の参加人数は前年度を下回る結果となってしまった。また、スポーツ施設の利用者数については、施設の改修や各種大会が東部開催となった関係で、利用者数が減る結果となった。			
改 善 事 項 又 は 課 題		「親子いきいき元気プログラム」は、前期・後期で各4回実施しているが、期毎の申込みのため参加人数に差が出てしまっている。事務作業効率もふまえ、募集方法等を検討したい。			
今後の方向性		既存事業を活用し、2030年開催予定の「島根かみあり国スポ・全スポ」の当市開催競技に関する取組を行い、競技への理解を深めるとともに機運醸成を図りたい。また、複数の施設改修が見込まれており、その間の活動について検討していく。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
C	一定の成果があった

基 本 施 策		6 人権の尊重の推進			
取 組 方 針		人権や男女共同参画に対する意識を高め、個性や多様性を認め合うことで、差別や偏見をなくし、誰もが平等に社会参画できる環境をつくります。			
具 体 施 策		人権・同和教育と人権啓発の推進	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑭	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅰ5①		
施 策 内 容		学校教育と社会教育との連携により、同和問題を始めとした様々な人権問題についての学習会、講演会などを学校や地域、職場において実施し、広く市民の人権問題に対する理解と認識の醸成を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 各地区における人権・同和教育研修会等への参加者数 2,300人（R5実績:2,067人）		3,210人 ・人権・同和教育合同研修会「すだちの苗木」「誰もが幸せに生きられる社会をめざして」 ① ・人権・同和教育合同講演会「LGBTQへの理解について」 ・異文化教室、世代間交流 ほか		4	
		100%			
② 人権・同和问题研修会への参加者数 1,400人（R5実績:1,372人）		1,643人 ・人権・同和教育研究集会「だれもが安心して暮らせる地域づくり～子ども食堂の取組から～」 ② 「一歩を踏み出せる子どもを育てるために」 ・夢ひきよせる！人権・同和教育2024 ほか		4	
		100%			
③		③			
事 業 成 果		①各地区では、小中学校や地域の団体等と連携し、様々な人権課題に関する人権研修や人権啓発展示、DVD上映、地域住民の交流事業など、地域の特色を生かしながら人権啓発に取り組んでいただいた。 ②社会情勢や参加者アンケートから関心のある人権問題をテーマに取り上げることにより目標を上回る多くの方に参加していただくことができた。			
改 善 事 項 又 は 課 題		①地区からは、人権問題を地区住民へ十分周知できていないことや参加者の減少、交通手段の確保などの課題があがった。 ②繰り返し継続して市民に対する人権教育・啓発に取り組む必要がある。			
今後の方向性		昨年、益田市差別のない人権尊重の社会づくり条例を制定した。条例内容の周知を図るとともに、人権を尊重し、個性や多様性を認め支え合う社会の実現を目指し、工夫しながら継続して人権教育・啓発の取組を進めていく。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
A	目標どおりの成果があった

令和7年度
益田市教育委員会
事務事業別点検・評価シート

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		地域ぐるみでの教育の推進 （保護者と連携したメディアコントロールの取組）		事業実施方法	学校指導
				事業実施方法での特記事項	
事業番号	①	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1①		
施 策 内 容		児童・生徒、保護者などが正しい情報活用能力を身に付けられるよう、メディアコントロール、情報リテラシーに関する取組を強化する。			
評価対象事業目標			評価対象事業実績		評価点
① 益田市児童生徒意識調査「普段、1日あたり4時間以上テレビゲームをしている」割合 小学生20%以下、中学生15%以下 （R6実績：小学生19%、中学生19%）			①		
② 益田市児童生徒意識調査「普段、1日当たり4時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する」割合 小学生15%以下、中学生20%以下 （R6実績：小学生17%、中学生22%）			②		
③ 市教委主催の情報モラル教育研修会の参加保護者のアンケートにて、「研修内容を今後の子どもとの関わりや取組等に活かしていきたいと思う」に関する肯定的回答95%以上（R6実績：100%）			③		
事 業 成 果					
改 善 事 項 又 は 課 題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実		
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。		
具 体 施 策		確かな学力の向上を目指した教育の推進	事業実施方法	学校指導
			事業実施方法での特記事項	
事業番号	②	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1②	
施 策 内 容		「気付きと対話」のある授業づくり推進事業を進めながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視した授業の実践を全ての小中学校で行う。		
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
①	全国学力・学習状況調査質問紙「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の割合 小学生80%以上 中学生85%以上 (R6実績：小学生80%、中学生87%)	①		
②	全国学力・学習状況調査質問紙「国語の勉強が好きだ」「算数・数学の勉強が好きだ」の割合 小学生55%以上 中学生65%以上 (R6実績：小学生53%、中学生61%)	②		
③	全国学力・学習状況調査質問紙「国語の授業がよくわかる」「算数・数学の授業がよくわかる」の割合 小学校78%以上 中学校77%以上 (R6実績：小学校77% 中学校76%)	③		
④	益田市児童生徒意識調査「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」における割合 小学校80%以上 中学校80%以上 (R6実績：小学校81% 中学校79%)	④		
事 業 成 果				
改 善 事 項 又 は 課 題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		確かな学力の向上を目指した教育の推進と子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進	事業実施方法	学校指導	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	③	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1②③		
施 策 内 容		電子黒板や一人一台端末等、ICT機器を活用した学びの推進や、校種間連携等の多様な取組を通して、子どもの学力向上を図る。また、保幼小中高のつながりを一層深め、各年代の教育の充実を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 授業におけるICT機器の1日1回以上の活用している教員の割合 小学校95%以上 中学校100% (R6実績：小学校93%、中学校100%)		①			
② 幼小連携協議会研修会におけるアンケート「幼児・児童個々の発達の特徴に応じた環境構成とかわりができた」の肯定的回答 90%以上 (R6実績：88%)		②			
③ 各中学校区相互授業交流に参加した教員の振り返り「取組は有意義であった」の肯定的評価 90%以上		③			
事 業 成 果					
改 善 事 項 又 は 課 題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進 （いじめ未然防止の組織的な取組）	事業実施方法	学校指導	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	④	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1③		
施 策 内 容		児童・生徒への個別支援に丁寧に取り組む			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 全国学力・学習状況調査質問紙「先生はあなたの良いところを認めてくれている」における肯定的回答 小中学生ともに90%以上 (R6実績：小学生90%、中学生89%)		①			
② 全国学力・学習状況調査質問紙「学校に行くのは楽しいと思う」における肯定的回答 小中学生ともに80%以上 (R6実績：小学生77%、中学生81%)		②			
③ 不登校及び不登校傾向児童生徒と関係 諸機関との連携実績 95%以上 (R6実績：93%)		③			
事 業 成 果					
改 善 事 項 又 は 課 題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		益田市型中高一貫教育の推進	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑤	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1⑧		
施 策 内 容		理数教育の充実をはじめ確かな学力の育成等の中軸とする「益田市型中高一貫教育」の実現に向けた取組を推進する。			
評価対象事業目標			評価対象事業実績		評価点
① 中高連携学力育成推進事業における参加者アンケート「自ら進んで学習する意識が高まった」の肯定的回答 85%以上 (R6実績：87%)			①		
② 島根大学と協働実施する「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートにおいて、「難しい問題にもチャレンジしたい気持ちが、参加する前よりも強くなった」の肯定的回答 95% (R6実績:90%)			②		
③ 「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートにおいて、「大学生や学生に対するあこがれが強くなった」の肯定的回答95%以上 (R6実績：93%)			③		
事 業 成 果					
改 善 事 項 又 は 課 題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。			
具 体 施 策		ふるさとを愛し、誇りを持つ心を育てる教育の推進	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑥	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1④		
施 策 内 容		日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源について、子どもたちが関心を持ち、さらに理解を深めるために社会科見学の受入れや出前授業などの学習支援を継続し、ふるさとに誇りの持てる地域教育を実践する。			
評価対象事業目標			評価対象事業実績		評価点
① 「益田市の歴史文化は魅力的で誇りに思う」と回答した割合 小学生80%、中学生80% (R6実績:小学生83.7%、中学生81.4%)			①		
② 市内小中学校の社会科見学の受入れや出前授業の件数 小中学校で30件 (R6実績:社会科見学12件、出前授業17件)			②		
③			③		
事 業 成 果					
改 善 事 項 又 は 課 題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。			
具 体 施 策		教育環境の整備・活用	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑦	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1⑥		
施 策 内 容		児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう「学校施設整備計画」などに基づき、学校トイレの改修などを進め、老朽化の進む施設の計画的な整備を行う。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績			評価点
① 市内中学校2校の学校トイレ改修の実施による洋便器化率 57.0% (R6実績:56.4%) 対象箇所：高津中1階、東陽中2階		①			
② 老朽化の進む屋外で使用する教具・遊具の計画的な更新 教具・遊具：3か所 対象校：益田小1基、豊川小3基、戸田小3基		②			
③		③			
事 業 成 果					
改 善 事 項 又 は 課 題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。			
具 体 施 策		ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成	事業実施方法	その他	
			事業実施方法での特記事項	学校及び市内事業者等との連携・協働	
事業番号	⑧	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1⑦		
施 策 内 容		「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや、生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 学校の学びを地域活動に活かす取組の実施地区数 20地区（R6実績:20地区）		①			
② ライフキャリア教育に関わる大人の数 1,000人（R6実績:4,072人）		②			
③ 全国学力・学習状況調査質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたと思う」における肯定的回答 小中学生ともに70%以上（R6実績：小学生73.7%、中学生79.0%）		③			
事 業 成 果					
改 善 事 項 又 は 課 題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		2 地域・世代を越えた学習機会の創出		
取 組 方 針		各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、地域・世代を越えた学習機会と活動づくりを進めます。		
具 体 施 策		地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化	事業実施方法	その他
			事業実施方法での特記事項	公民館及び地域団体等との連携・協働
事業番号	⑨	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ2①	
施 策 内 容		各地区の公民館や地区つろうて子育て協議会、地域の任意団体や中間支援組織が、地域の特性やそれぞれの専門性を活かしながら多世代が関わる学習プログラムをつくり、多様な活動や学習機会を提供する。		
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 公民館などの活動の参加者数 143,000人		①		
② 公民館などの活動の参加者数のうち高校生以下の数 31,000人		②		
③ 公民館などが、多世代に関わることを意識した他団体との連携数 12（R6実績：24）		③		
④ 公民館などが、多世代に関わることを意識した学習プログラム実施数 80回（R6実績：71回）		④		
事 業 成 果				
改 善 事 項 又 は 課 題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	評価対象事業自己評価

令和7年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート				所管課	ひとづくり推進課
基本施策		2 地域・世代を越えた学習機会の創出			
取組方針		各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、地域・世代を越えた学習機会と活動づくりを進めます。			
具体施策		社会教育の推進と活動拠点づくり	事業実施方法	業務委託等	
			事業実施方法での特記事項	運営協議会を設置した小学校へ配置	
事業番号	⑩	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ2③		
施策内容		各地区の公民館が、「ひとづくり」や地域づくりの拠点となるよう、活動を牽引する人が必要とするスキルの習得をサポートするとともに、公民館の運営を支える体制づくりを行う。また、社会教育コーディネーターの配置を継続し、未来の担い手育成を意識した世代間交流の取組の充実を図る。			
評価対象事業目標			評価対象事業実績		評価点
① 公民館職員スキルアップ研修参加者数 200人（R6実績：301人）			①		
② 社会教育コーディネーター配置数 7名（R6実績：4名）			②		
③ 社会教育コーディネーターが関わった世代間交流の取組数（平均） 68件（R6実績：77件）			③		
④			④		
事業成果					
改善事項 又は課題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進			
取 組 方 針		地域の歴史や文化の保存と調査研究を進めるとともに、その成果や日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源を活用することで、将来へ継承していく機運を醸成します。			
具 体 施 策		豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑪	施策体系	第6次総合振興計画基本目標Ⅱ3①		
施 策 内 容		地域の歴史や文化の保存と調査研究を進め、それらの情報発信を行い、普及啓発を進める。三宅御土居跡の更なる利活用を図るために、主郭部の整備工事を行う。「益田市立雪舟の郷記念館」について、魅力向上、機能充実の為の改修工事を実施する。文化遺産活用パートナーを育成する。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 市と民間団体等が協働して歴史文化を活かした取組を実施した件数 20件/年（R6実績:19件）		①			
② 島根県政世論調査に基づく「文化財の保存・継承・活用に関する市民の満足度」70%（R6実績:64.5%）		②			
③ 岩本薫記念益田杯決勝戦大盤解説会参加者数 200人		③			
事 業 成 果					
改 善 事 項 又 は 課 題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

令和7年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート				所管課		教育総務課	
基本施策		4 食と農への理解の促進					
取組方針		食への感謝の気持ちを醸成するとともに、地域の食文化への認識を高め、食の安心・安全と地産地消に関する理解促進のため、啓発活動などに取り組みます。					
具体施策		安心・安全な食の提供				事業実施方法	その他
						事業実施方法での特記事項	市場関係者及び市農林水産課、学校との協議調整
事業番号	⑫	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ4③				
施策内容		市場関係者などと連携を深めながら、地元食材を活用した学校給食の提供による地産地消に取り組む。					
評価対象事業目標			評価対象事業実績				評価点
① 高津学校給食センター 地産地消比率40%維持(副食重量ベース) (R6高津実績:37.27%)			①				
② 美都学校給食共同調理場 地産地消比率60%維持(副食重量ベース) (R6美都実績:71.54%)			②				
③ 栄養教諭及び学校栄養士の食育指導を通じた児童生徒の学校給食献立作成への参加校10校 (R6実績:6校)			③				
事業成果							
改善事項又は課題							
今後の方向性							
その他参考となるべき事項							

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		5 生涯スポーツ社会の実現			
取 組 方 針		各施設を活用したスポーツ活動を推進し、地域間交流の機会を創出します。			
具 体 施 策		スポーツ環境の充実	事業実施方法	その他	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑬	施策体系	第6次総合振興計画Ⅱ5①		
施 策 内 容		生活に潤いをもたらすスポーツが日々の暮らしの中に取り入れられるように、多様な参加機会の拡充を図り、誰でも参加できる体制づくりを行う。また、スポーツ分野における中間支援組織として、一般社団法人益田市スポーツ協会の機能強化を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① スポーツ施設年間利用者数 220,000人（R6実績:201,974人）		①			
② 親子いきいき元気プログラムの参加人数 250人（R6実績：178人）		②			
③ 一般社団法人益田市スポーツ協会の実施事業数 12件（R6実績：11件）		③			
事 業 成 果					
改 善 事 項 又 は 課 題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

基 本 施 策		6 人権の尊重の推進			
取 組 方 針		人権や男女共同参画に対する意識を高め、個性や多様性を認め合うことで、差別や偏見をなくし、誰もが平等に社会参画できる環境をつくります。			
具 体 施 策		人権・同和教育と人権啓発の推進	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑭	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅰ5①		
施 策 内 容		学校教育と社会教育との連携により、同和問題を始めとした様々な人権問題についての学習会、講演会などを学校や地域、職場において実施し、広く市民の人権問題に対する理解と認識の醸成を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 各地区における人権・同和教育研修会等への参加者数 3,200人（R6実績:3,210人）		①			
② 人権・同和问题研修会への参加者数 1,600人（R6実績:1,643人）		②			
事 業 成 果					
改 善 事 項 又 は 課 題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価

令和7年度

益田市の教育の概要

益田市教育委員会

目 次

I 益田市「教育に関する大綱」	1
II 令和7年度 施政方針における教育行政の取組について	2

資料編 I（基本データ）

1 益田市教育委員会各種委員会	5
（1）益田市教育委員会の状況	
（2）総合教育会議の状況	
（3）教育に関し、市長又は教育委員会が設置する審議会等	
2 令和7年度 益田市小中学校一覧	10
3 小中学校位置図	11
4 学校別学年別学級数・児童生徒数	11
5 令和7年度当初 益田市一般会計予算額（教育費）	12
6 益田市教育委員会事務局組織体制	14

資料編 II（施策・取組状況のデータ）

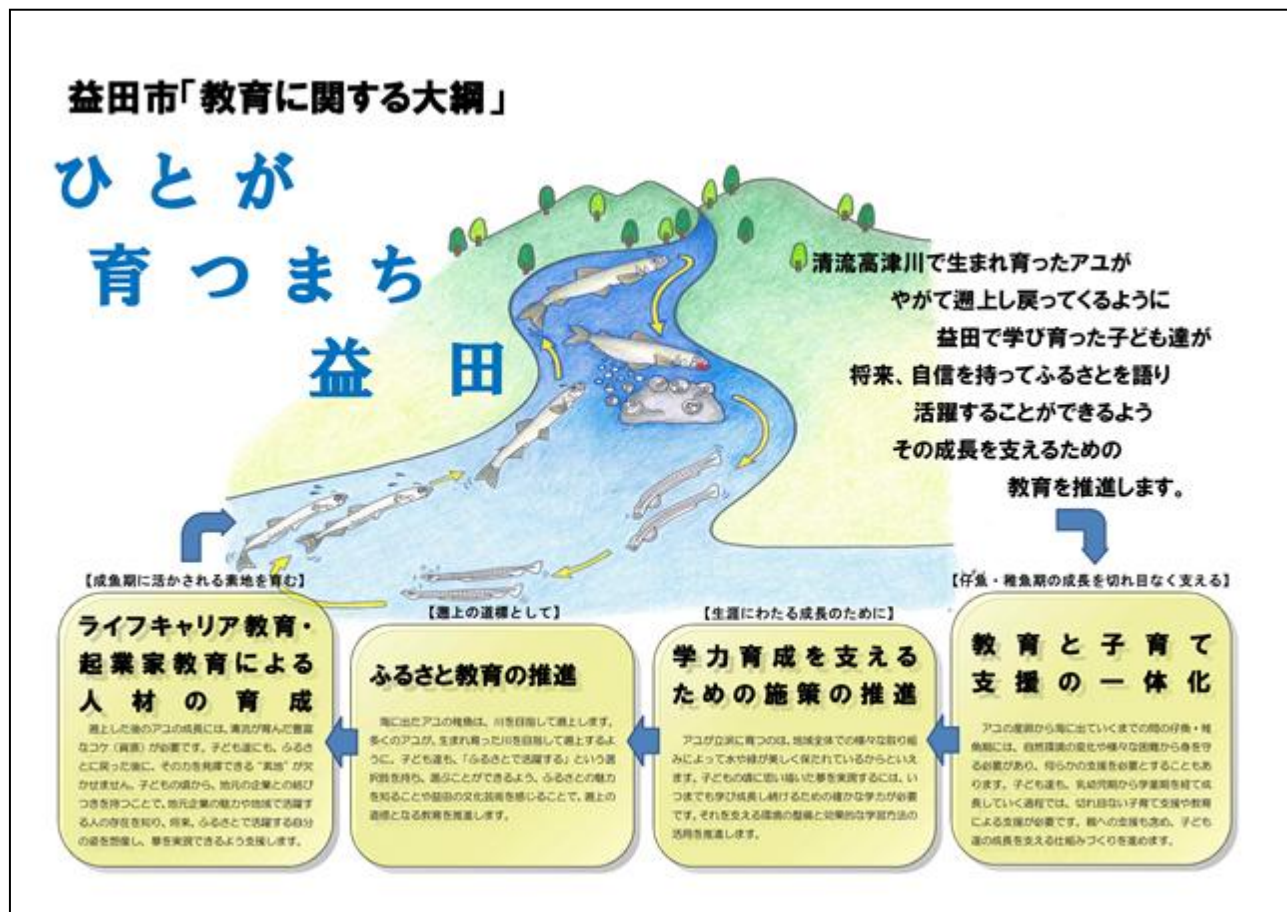
1 益田市奨学金事業の概要	16
2 益田市の児童生徒数・学校規模等について	17
（1）児童生徒数の推移	
（2）学校数の推移	
（3）特別支援学級及び在籍児童生徒の推移	
（4）学校施設の整備の状況	
3 一般会計（当初予算）に占める教育費の現状（他市との比較）について	19
4 令和6年度学力調査結果について	20
（1）教科に関する調査の結果から	
（2）生活・学習意識調査及び質問紙調査の結果から	
5 教育設備等について	21
（1）学校における ICT 環境の整備	
（2）益田市の教員の ICT 活用状況	
（3）学校図書館の図書整備状況	
6 就学援助について	22
（1）準要保護児童生徒の認定状況の推移	
（2）特別支援教育就学奨励児童生徒の認定状況の推移	
（3）特別支援教育支援員等の配置状況	

7	益田市立図書館について	24
	(1) 令和6年度 益田市立図書館蔵書等利用状況	
	(2) 令和6年度 資料等整備状況	
8	放課後子ども教室について	25
9	公民館活動実施状況について	27
10	スポーツ活動の推進について	28
	(1) 「する」スポーツの充実	
	(2) 「みる」スポーツの充実	
	(3) 「ささえる」スポーツの充実	
	(4) 「地域社会」との連携	
11	文化芸術の振興について	31
	(1) 協議会、実行委員会	
	(2) 令和6年度 文化施設の入館者数	
	(3) 令和6年度 偉人顕彰、後継者育成	
12	ライフキャリア教育の取組状況について	32
	(1) 「夢の教室」の開催	
	(2) 「対話プラス」の開催	
	(3) 「益田版・職場体験」の実施	
	(4) 「ロールモデル接続事業」の実施	
13	歴史・文化財等の調査研究、普及啓発について	33
	(1) 益田市指定文化財一覧表	
	(2) 調査研究の推進	
	(3) 学校との連携	
	(4) 地域との連携	
14	人権・同和教育の研修実績について	36
	(1) 教職員向け研修	
	(2) 人権・同和教育推進協議会委員、事務局員向け研修	

I 益田市「教育に関する大綱」

「ひとが育つまち益田」の実現を目指し、次世代を担う子ども達が安全で安心して学習できる教育環境の整備と、益田で培った才能を益田で発揮できる環境の整備に向け、市長と教育委員会が連携し、早期かつ重点的に取り組む施策の指針として、平成 27 年 6 月 1 日に益田市「教育に関する大綱」を策定しました。その後平成 27 年 12 月に「未来を担うひとづくり計画」、さらに平成 28 年 3 月には「益田市ひとづくり協働構想」を策定しました。これらとの整合性を図り、構想に掲げる施策を市長部局と教育委員会がより連携を意識することにより、その実現を図るため、平成 29 年 7 月に見直しを行いました。

重点項目	方 針
教育と子育て支援の一体化	就学前と就学後、学校での学習時間と放課後、夏休みなどの長期休業中と通常の学期中など、子ども達を支える担い手と公的部門が現状では分化しています。それらの一本化を図り、同じ目的意識のもとで、学校施設を有効に活用し子ども達を育む機能を高めます。
学力育成を支えるための施策の推進	I C Tや学校図書館を活用した教育等により、読解力や学び方、情報活用能力等を身に付けるとともに、「分かる授業」や「家庭学習の充実」等の取り組みにより、学習習慣の醸成や学びに向かう力を育成し、子ども達が将来への視野を広げ、自らの可能性を広げることのできる教育を推進します。また、子ども達が安全に安心して学ぶための教育環境を整備します。
ふるさと教育の推進	ふるさと益田に深い愛着を持ち、このまちで培った才能を内外で発揮できる子ども達を育てるとともに、特に、益田で活躍したいと強く意識できるよう子ども達の成長を支えます。また、身近に豊かな文化芸術にふれることで、より郷土愛と人間性を育む機会を充実させます。
ライフキャリア教育・起業家教育による人材の育成	職業に関する教育や職場体験により、地元の企業や地元で活躍している経営者や事業家に接することや、益田でいきいきとくらすロールモデルと対話することを通じて、「この地で活躍する自分の将来像」を思い描けるように、将来の益田を担うことのできる人材育成を推進します。



Ⅱ 令和7年度 施政方針における教育行政の取組について

1. 令和7年度の重点方針

「益田市型中高一貫教育の推進」です。県内高等教育機関や市内高等学校などと連携し、学力育成と高等学校卒業後の選択肢の充実を図ることで、より魅力的な教育環境の実現を目指します。

2. 令和7年度の主要施策

「ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち」についてです。

教育振興のための重点施策に関しては、私と教育委員会が総合教育会議において協議・調整を行っており、各施策についても緊密な意思疎通による連携の下、実施することとしております。

令和7年度においては、本市教育の目指す理念や方向を示す「教育に関する大綱」が、策定から10年経過することから、総合教育会議において改定に向けた議論を進めてまいります。

また、教育委員会において、国の「第4期教育振興基本計画」と、島根県教育委員会において策定中の「しまね教育振興ビジョン」を踏まえ、「益田市教育ビジョン」の改定に取り組むこととしてまいります。

未来の担い手育成については、「益田市の未来を担うひとづくり計画」に基づき、「対話プラス」や「学校を核とした地域づくり」などを通じて、多様な価値観がふれあう場を創出し、引き続きライフキャリア教育を積極的に展開してまいります。

益田市型中高一貫教育については、市内高校魅力化に対する支援を継続するとともに、島根大学、島根県立大学及び松江工業高等専門学校等との連携による「算数・数学パワーアップ教室」や、「ド

リカム教室」として実施する「中高連携学力育成推進事業」の一層の充実を図り、児童・生徒の自ら学びに向かう意識の醸成に取り組みます。

「新しい学びのカタチ」の取組において、小・中学校の各児童・生徒に貸与している端末機器については、島根県教育委員会の主導する共同調達に参加し、補助金を活用して更新するとともに、令和6年度から市内すべての小・中学校で取り組んでいる『『気づきと対話』のある授業づくり推進事業』とも連携させ、有効に活用してまいります。

学校給食については、昨今の物価高騰などの影響を受けた給食費の改定に伴い、増額分の一部を市が負担する激変緩和策を実施するとともに、地産地消を推進し、農業や生産者への親近感を醸成するため、地元食材の提供を引き続き支援します。

「益田市奨学金」については、貸付金一部返還免除制度を継続するとともに、新たに全額免除制度を創設することで、若者の地元定住と市内就職につなげてまいります。

戸田小学校については、校舎の耐震性が十分でないため、高津中学校と統合する小野中学校の校舎を部分的に改修し、令和8年4月の移転に向け、準備を進めます。

本市出身の囲碁棋士であり名誉市民でもある本因坊薫和こと、岩本薫の功績を称えとともに、次世代を担う若手棋士の育成を目的とした棋戦「岩本薫記念益田杯」の決勝戦を本市に誘致することで、本市の魅力を広く発信するとともに、交流人口の拡大につなげます。

令和7年4月26日から開催されるグラントワ開館20周年記念企画展「石見の祈りと美 ～未来へつなぐ中世の宝～」にあわせ、益田市立歴史文化交流館「れきしーな」における企画展や、益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会等との連携による関連企画を実施し、市民の歴史文化に対する理解と関心、地域への誇りの更なる醸成につなげてまいります。

2030年に島根県で開催予定の「第84回国民スポーツ大会」及び「第29回全国障害者スポーツ大会」に向け、中央競技団体の指摘事項等を踏まえた施設整備の基本的な考えをまとめるとともに、効果的で効率的な大会運営に向け、運営組織の設立準備にも着手してまいります。

（令和7年3月議会定例会において市長から表明）

資料編Ⅰ（基本データ）

1 益田市教育委員会各種委員会

(1) 益田市教育委員会の状況

① 教育委員会の構成

令和7年4月1日現在

氏 名	役 職	初任日	任 期
領 家 芳 明	教 育 長	令和 6 年 4 月 1 日	令和 9 年 3 月 31 日
齋 藤 哲 瑯	教 育 長 職務代理	令和 3 年 12 月 26 日	令和 7 年 12 月 25 日
原 田 笑	委 員	令和 4 年 12 月 26 日	令和 8 年 12 月 25 日
山 本 ひ と み	委 員	令和 5 年 12 月 26 日	令和 9 年 12 月 25 日
森 脇 達 也	委 員	令和 6 年 12 月 26 日	令和 10 年 12 月 25 日

② 令和6年度 教育委員会活動状況等

(ア) 教育委員会

定例会 12回(月1回)

臨時会 4回

教育委員出席率 98%

(イ) 教育委員会審議状況(主要なものを抜粋)

回(開催月)	分類	案 件
第925回 (R6年4月)	議題	益田市教育支援委員会委員の任命について
		益田市社会教育委員の委嘱について
	報告	「春休み!算数・数学パワーアップ教室」について
		益田市文化財保護審議会委員の委嘱について
		秦佐八郎博士顕彰委員の委嘱について
		益田市教育委員会外部評価委員会委員の委嘱について
第926回 (R6年5月)	議題	教育財産(鎌手公民館敷地の一部)の用途廃止について
	報告	益田市立小野中学校の学校再編について
		益田市学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について
		令和6年度中高連携学力育成推進事業の取組状況について
		令和6年度益田地区教科用図書採択の流れについて
		益田市立雪舟の郷記念館改修整備事業について
第927回 (R6年6月)	報告	教職員の窃盗による懲戒処分について
		第565回益田市議会定例会一般質問について
		全国山城サミット益田大会に係る関連企画の実施状況について

回（開催月）	分類	案 件
第 928 回 (R6 年 7 月)	協議	令和 6 年度（令和 5 年度事業分）益田市教育委員会点検・評価報告書について
第 929 回 (R6 年 7 月)	議題	令和 6 年度益田地区中学校教科用図書採択に係る優先順位について
		教育財産（旧西南中学校敷地及び建物）の用途廃止について
		益田市屋外照明施設の使用に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	報告	公民館長の任用等について
		埋蔵文化財包蔵地に関する周知の強化について
		令和 6 年度 6 月益田市一般会計補正予算について
第 930 回 (R6 年 8 月)	議題	令和 7 年度益田地区中学校教科用図書の採択について
		益田市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
	報告	令和 6 年度(令和 5 年度事業分)益田市教育委員会点検評価報告書について
		益田市戸田小学校の移転・改修について
		「令和 6 年度全国学力・学習状況調査の結果」について
		「夏休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況について
		秦佐八郎博士の胸像等寄贈について
		「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」開催報告（速報）について
第 931 回 (R6 年 9 月)	報告	市立中学校において発生した事態の経過と対応について
第 932 回 (R6 年 9 月)	議題	感謝状の贈呈について
	報告	市内小学校で発生した給食時における金属物の混入について
		益田市立学校整備計画審議会委員の委嘱について
		令和 6 年度 全国学力・学習状況 調査結果を受けた対応について
		「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」開催報告について
		萩・石見空港マラソン全国大会準備状況等の報告について
		益田市立雪舟の郷記念館改修整備事業について
		第 5 6 6 回益田市議会定例会一般質問について
		令和 6 年度 9 月益田市一般会計補正予算について
第 933 回 (R6 年 10 月)	議題	教育財産（鎌手公民館敷地の一部）の用途廃止について
	報告	益田市学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について
		益田市立学校整備計画審議会に対する諮問について

回（開催月）	分類	案 件
第 934 回 (R6 年 11 月)	報告	地域公共交通について
		益田市の 1 人 1 台端末の活用状況について
第 935 回 (R6 年 12 月)	議題	教育財産（益田運動公園陸上競技場写真判定装置一式）の取得について
	報告	赤色立体地図の寄贈について
		第 5 6 7 回益田市議会定例会一般質問について
		令和 6 年度 1 2 月益田市一般会計補正予算について
第 936 回 (R7 年 1 月)	報告	「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画（後期）」の策定に向けて
第 937 回 (R7 年 1 月)	議題	益田市教育委員会事務局組織規則及び益田市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則の制定について
	報告	「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」について
		公民館長の任免について
第 938 回 (R7 年 2 月)	議題	給食費（給食食材費）の改定について
		益田市立小学校及び中学校校区に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	報告	益田市奨学金制度の拡充について
		公民館長の任用について
		益田市指定文化財「大内正弘書状」の寄贈について
第 939 回 (R7 年 3 月)	議題	今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画（後期）について
第 940 回 (R7 年 3 月)	議題	益田市立小・中学校の教職員の服務規則の一部を改正する規則の制定について
		益田市公民館管理運営規則の一部を改正する規則の制定について
		益田市立図書館電子計算システム運用管理規則の一部を改正する規則の制定について
		公民館長の任用について
		図書館協議会委員の任命及び委嘱について
		感謝状の贈呈について
		益田市教育委員会事務委任規則の一部を改正する規則の制定について
	報告	「令和 6 年度島根県学力調査結果」及び「令和 7 年度学びの根っこをぐんぐん伸ばすプロジェクト『学びの基盤に関する調査』実施」について
		企画展「中世益田の至宝展－古文書・出土品－」及び関連事業について
		第 3 回岩本薫記念益田杯決勝戦の益田市開催について
		第 5 6 9 回益田市議会定例会一般質問について
		令和 6 年度 3 月益田市一般会計補正予算について
		令和 7 年度益田市一般会計予算について

(ウ) 会議外の主な教育委員会活動

種 別	活 動	開催月
研修会等	総合教育会議	令和 6 年 5 月
	益田鹿足市町教育委員会連合会第 1 回研修会	令和 6 年 8 月
	学校訪問（益田東中学校）	令和 6 年 9 月
	益田鹿足市町教育委員会連合会第 2 回研修会	令和 6 年 12 月
	小中学校校長会	令和 7 年 2 月
	総合教育会議	令和 7 年 2 月
	益田鹿足市町教育委員会連合会第 3 回研修会	令和 7 年 3 月

(2) 総合教育会議の状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 4 の規定に基づいて市長が設置する総合教育会議では、市長と教育委員会が執行機関同士、対等な立場で協議・検討する場として位置づけられています。総合教育会議では、主に次の事項を協議することと規定されています。

① 協議・調整すべき事項

(ア) 教育に関する大綱の策定

(イ) 教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき措置

(ウ) 児童・生徒等の生命または身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがある
と見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置

② 令和 6 年度 総合教育会議開催状況

開 催 月	場 所	案 件
令和 6 年 5 月	市立保健センター大ホール	「気づきと対話」のある授業づくりについて
令和 7 年 2 月	益田市役所大会議室	教育に関する大綱の見直しについて

(3) 教育に関し、市長又は教育委員会が設置する審議会等

令和 7 年 4 月 1 日現在

名 称	設置根拠法令	委員数	実人数	任命権者
益田市教育審議会	益田市教育審議会条例	20 人以内	12 人	教育委員会
益田市奨学金貸付審議会	益田市奨学金貸付条例	10 人以内	8 人	市 長
益田市教育委員会外部評価委員会	益田市教育委員会外部評価委員会設置規則	5 人以内	4 人	教育委員会
益田市立学校給食共同調理場運営委員会	益田市立学校給食共同調理場設置及び管理に関する条例	15 人以内	12 人	教育委員会
益田市教育支援委員会	益田市教育支援委員会条例	17 人以内	15 人	教育委員会
益田市特別支援教育連携協議会	益田市特別支援教育連携協議会設置要綱	16 人	15 人	教育委員会
益田市いじめ問題対策連絡協議会	益田市いじめ問題対策連絡協議会等設置条例	15 人以内	15 人	市 長
食物アレルギー対応検討委員会	食物アレルギー対応検討委員会設置要綱	8 人以内	8 人	教育委員会
益田市スポーツ推進審議会	益田市スポーツ推進審議会条例	10 人以内	9 人	教育委員会
図書館協議会	益田市図書館設置条例	10 人以内	5 人	教育委員会
社会教育委員	益田市社会教育委員条例	15 人	15 人	教育委員会

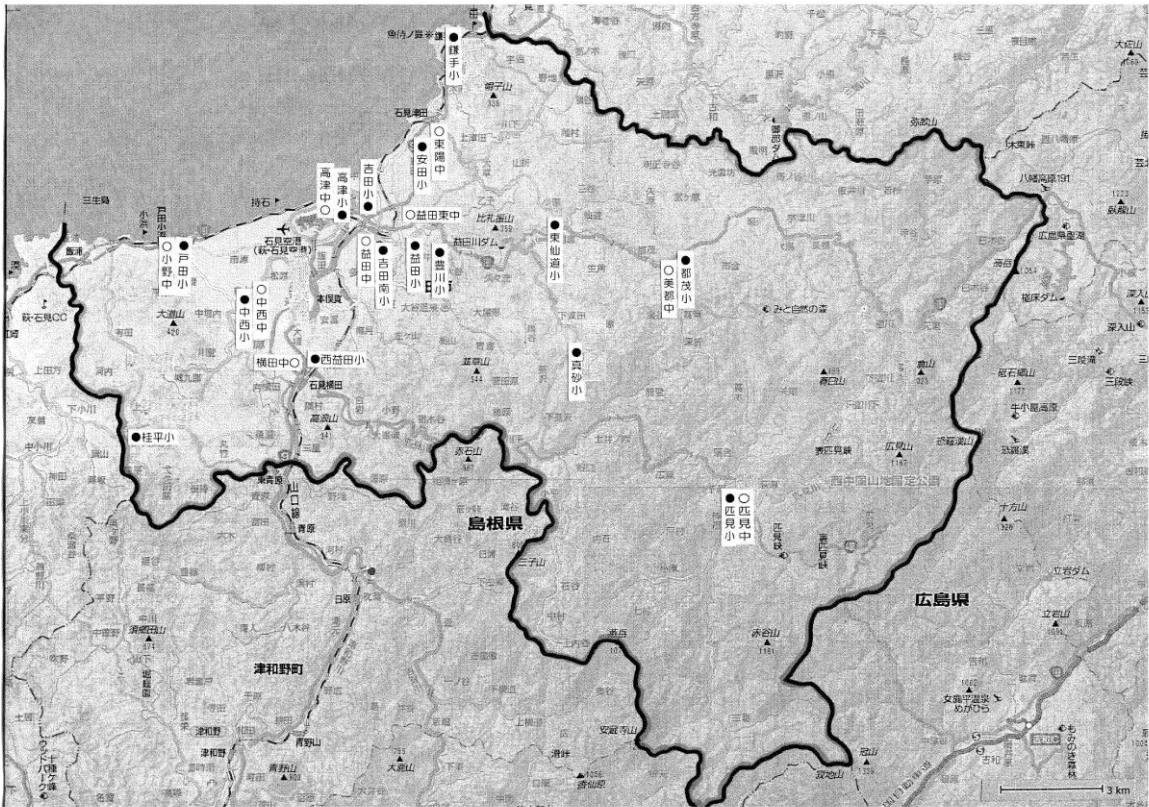
秦佐八郎博士顕彰委員会	秦佐八郎博士顕彰委員会設置条例	6 人	6 人	市 長
益田市文化財保護審議会	益田市文化財保護条例	7 人	7 人	教育委員会
史跡益田氏城館遺跡群整備 検討委員会	史跡益田氏城館遺跡群整備検討委員 会設置規則	15 人以内	5 人	教育委員会

2 令和7年度 益田市小中学校一覧

学 校 名	住 所	電 話	校 長	教 頭	教職員数 (人)
益田小	本町7-17	22-2395	小田川 治	福原 奈美	31
高津小	高津一丁目34-1	22-0733	田中 茂秋	江角しのぶ	40
吉田小	中吉田町272	22-2385	瀬戸 洋	岩崎 真人	54
吉田南小	水分町11-3	23-2321	大島 義紹	中島 美千	19
安田小	遠田町758-1	27-0019	中尾 瑞紀	植田 充一	20
鎌手小	西平原町584	27-0504	松本 徹	島田 謙一	11
真砂小	波田町イ481	26-0543	稲田 章一	中村 浩志	10
豊川小	大谷町347-2	22-2368	品川 智成	田原 俊輔	12
西益田小	横田町147	25-2555	岩崎 伸史	富澤 孝輔	19
桂平小	桂平町427	29-0019	田原 昭久	杉内 直也	7
戸田小	戸田町イ952-1	28-0009	中島 恵治	谷上 元織	8
中西小	白上町イ802	28-0507	山根 崇志	石橋 功子	14
東仙道小	美都町仙道125	52-2225	房野 伸枝	三口 由香	10
都茂小	美都町都茂1887-1	52-2547	坂野 智之	篠田 隆信	9
匹見小	匹見町匹見イ1324	56-0017	大庭 匡史	國近 英永	13
益田中	栄町14-6	22-2390	兼子 史寛	宮田 茂樹	43
高津中	高津三丁目14-1	22-1001	野村 浩巳	石川 利久	34
益田東中	東町14-48	22-5011	寺戸 和泉	上田 陽一郎	23
東陽中	津田町740	27-0027	豊田 邦昭	村上 大樹	23
横田中	横田町8-6	25-2001	村上 剛	鹽谷 寛	15
小野中	戸田町イ1332-1	28-0011	和田 政幸	澄川 由紀	15
中西中	白上町イ1022	28-0510	藤下 泰之	渡邊 純一	16
美都中	美都町都茂1947	52-2525	木原 栄彦	羽根田 崇	14
匹見中	匹見町匹見イ1324	56-0034	大庭 匡史	國近 英永	13

小学校合計	277
中学校合計	196
総計	473

3 小中学校位置図



4 学校別学年別学級数・児童生徒数

令和7年度児童生徒数 (R7年5月1日現在)

学年・生徒数	1年		2年		3年		4年		5年		6年		計		
学校名	児童数	通常学級数	児童数	通常学級数	児童数	通常学級数	児童数	通常学級数	児童数	通常学級数	児童数	通常学級数	児童生徒数	学級数	特文学級数
益田小学校	41	2	61	2	55	2	42	2	54	2	52	2	305	12	4
高津小学校	50	2	47	2	70	2	61	2	61	2	52	2	341	12	4
吉田小学校	123	4	132	4	111	4	114	4	102	3	110	4	692	23	7
吉田南小学校	18	1	20	1	22	1	23	1	34	1	22	1	139	6	2
安田小学校	18	1	22	1	26	1	18	1	36	1	33	1	153	6	4
鎌手小学校	9	1	1	1	7	1	8	0	5	1	5	0	35	4	2
真砂小学校	1	1	1	0	1	1	0	0	4	1	2	0	9	3	1
豊川小学校	6	1	4	1	6	1	7	0	4	1	8	0	35	4	2
西益田小学校	18	1	21	1	20	1	18	1	23	1	24	1	124	6	4
桂平小学校	2	1	2	0	3	1	0	0	1	1	2	0	10	3	0
戸田小学校	3	1	2	0	6	1	7	0	8	1	9	1	35	4	0
中西小学校	17	1	9	1	5	1	14	0	11	1	14	1	70	5	2
東仙道小学校	3	1	2	0	3	1	4	0	1	1	6	0	19	3	2
都茂小学校	1	1	3	0	2	1	7	0	2	1	8	0	23	3	1
匹見小学校	5	1	5	1	5	1	5	0	1	1	3	0	24	4	0
計	315	20	332	15	342	20	328	11	347	19	350	13	2,014	98	35

益田中学校	142	4	149	4	130	4							421	12	4
高津中学校	89	3	63	2	60	2							212	7	2
益田東中学校	66	2	76	2	58	2							200	6	2
東陽中学校	34	1	48	2	39	1							121	4	3
横田中学校	30	1	31	1	33	1							94	3	3
小野中学校	0	0	9	1	15	1							24	2	3
中西中学校	24	1	10	1	16	1							50	3	3
美都中学校	5	1	3	1	7	1							15	3	0
匹見中学校	2	1	2	1	4	1							8	3	2
計	392	14	391	15	362	14							1,145	43	22

5 令和7年度当初 益田市一般会計予算額（教育費）

（歳 入）

（単位：千円）

款	項	目	令和7年度	令和6年度	比 較
使用料及び手数料	使用料	教育使用料	8,002	8,111	△109
国庫支出金	国庫補助金	教育費国庫補助金	142,874	151,458	△8,584
県支出金	県補助金	教育費県補助金	217,702	117,935	99,767
	委託金	教育費委託金	3,768	4,819	△1,051
財産収入	財産売払収入	生産物売払収入	38	33	5
寄附金	寄附金	教育費寄附金	2,100	2,100	0
繰入金	基金繰入金	斎藤驍育英基金繰入金	530	350	180
		小中学校施設整備基金繰入金	836	1,812	△976
		秦佐八郎博士顕彰記念事業基金繰入金	462	297	165
諸収入	貸付金元利収入	教育費貸付金元利収入	605	644	△39
	雑入	教育雑入	25,281	23,506	1,775
市債	市債	教育債	588,400	146,900	441,500
合 計			990,598	457,965	532,633

(歳 出)

(単位：千円)

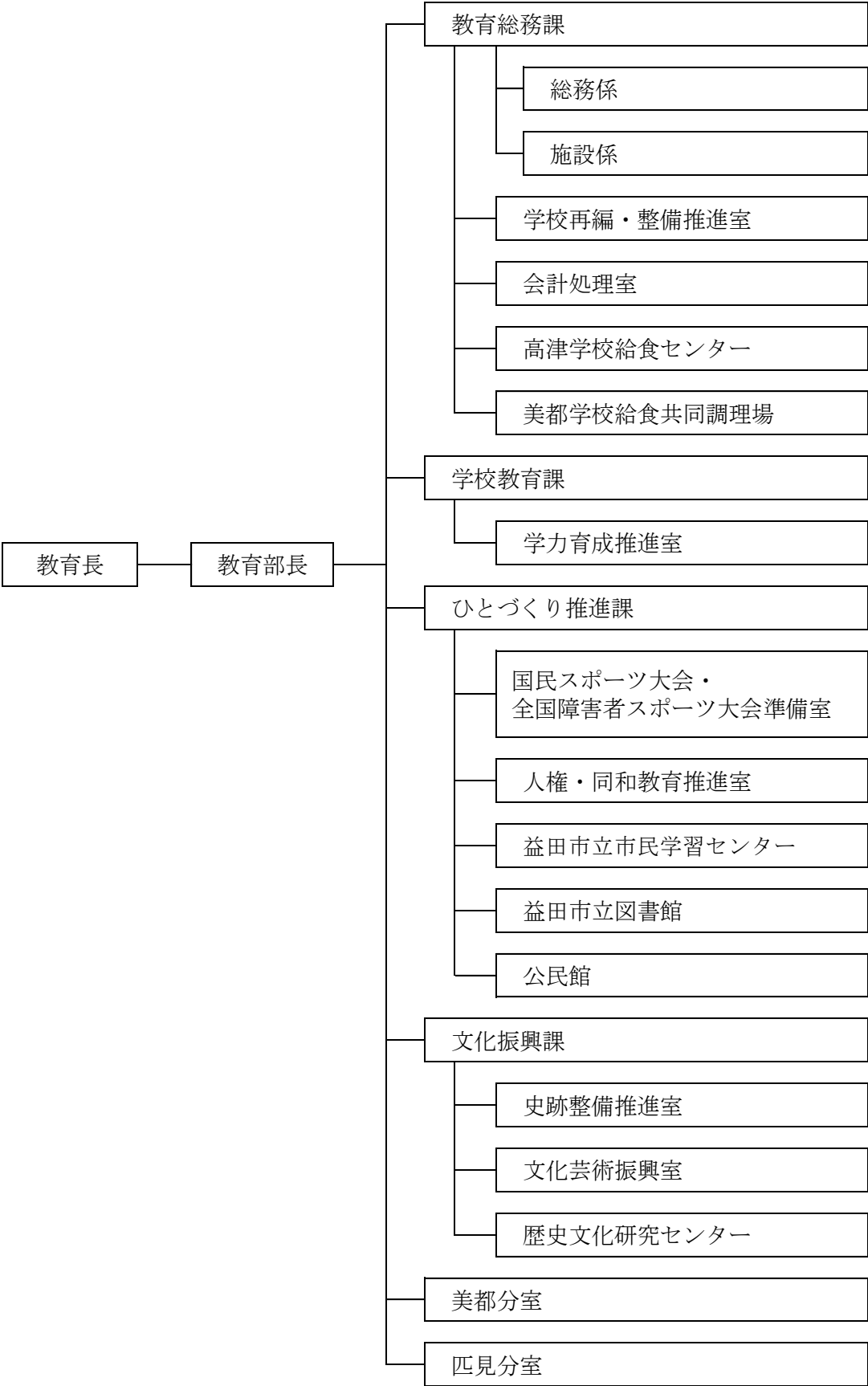
項	項	目	令和7年度	令和6年度	比 較
教育費	教育総務費		279,546	284,426	△4,880
		教育委員会費	3,440	3,010	430
		事務局費	276,106	281,416	△5,310
	小学校費		660,997	497,968	163,029
		学校管理費	218,723	226,132	△7,409
		教育振興費	442,274	271,836	170,438
	中学校費		487,489	333,278	154,211
		学校管理費	148,678	166,589	△17,911
		教育振興費	267,171	126,803	140,368
		学校建設費	71,640	39,886	31,754
	社会教育費		1,214,681	845,017	369,664
		社会教育総務費	380,956	324,400	56,556
		市民学習センター費	38,697	28,649	10,048
		文化財費	15,232	69,054	△53,822
		文化振興費	6,691	3,817	2,874
		文化施設費	384,418	56,274	328,144
		人権・同和教育費	1,180	1,180	0
		公民館費	280,233	258,957	21,276
		図書館費	107,274	102,686	4,588
	保健体育費		468,739	452,435	16,304
		保健体育総務費	29,416	35,689	△6,273
		体育施設費	127,678	122,024	5,654
		学校給食施設費	311,645	294,722	16,923
合 計			3,111,452	2,413,124	698,328

(単位：千円)

	令和7年度	令和6年度	比 較
一般会計歳出総額	27,903,000	27,070,000	833,000
一般会計総額に占める教育費の割合	11.2%	8.9%	

6 益田市教育委員会事務局組織体制

令和7年4月1日現在



資料編Ⅱ（施策・取組状況のデータ）

1 益田市奨学金事業の概要

(令和7年3月31日現在)

【奨学金制度】

貸付金額	高校	月額 16,000 円 以内
	高専・専修	月額 20,000 円 以内
	大学	月額 25,000 円 以内
貸付期間	在学する学校の正規の修業期間	
据置期間	貸付終了後1年間	
返還期間	6年以内。2校にわたり貸付を受けた場合は8年以内。	
返還免除	返還金が半額免除。 (免除の要件) 貸付け終了後、5年以上継続して益田市内に居住し、かつ、市内または市内から通勤可能な地域で就労されていること。	

【奨学基金の運用状況】

(単位：円)

年度	基金額	貸付額	返還金	貸付残額	基金残額
R 2	161,732,014	7,128,000	9,241,100	58,264,800	103,467,214
R 3	159,962,818	6,396,000	9,775,000	52,437,800	107,525,018
R 4	162,762,255	5,112,000	8,521,500	49,028,300	113,733,955
R 5	163,173,255	4,617,000	7,708,500	45,576,800	117,596,455
R 6	161,696,755	3,792,000	6,687,000	40,468,800	121,227,955

【奨学基金の収入状況】

(単位：円)

年度	一般財源	寄附金		利 息	合 計
R 2	0	1,350,000	(個人4)	40,539	1,390,539
R 3	0	660,000	(個人4)	18,804	678,804
R 4	0	2,797,453	(団体2、個人6)	1,984	2,799,437
R 5	0	768,956	(個人4)	2,044	771,000
R 6	0	640,000	(団体1、個人2)	96,500	736,500

【貸付者数】

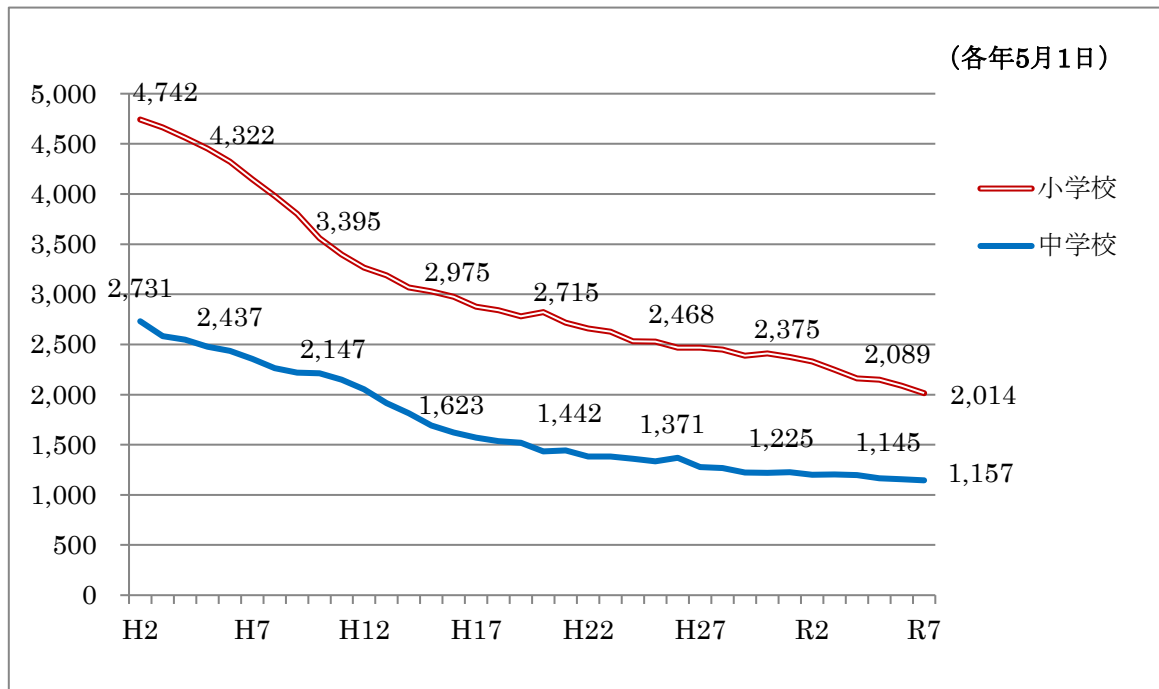
(単位：人)

年度	貸付者数 (うち新規貸付者数)			
	高 校	高専・専修	大 学	合 計
R 2	9 (1)	5 (2)	14 (2)	28 (5)
R 3	8 (4)	4 (1)	13 (2)	25 (7)
R 4	6 (3)	4 (2)	10 (3)	20 (8)
R 5	6 (2)	2 (1)	11 (4)	19 (7)
R 6	6 (1)	1 (0)	8 (0)	15 (1)
R 7	5 (2)	1 (1)	10 (4)	16 (7)

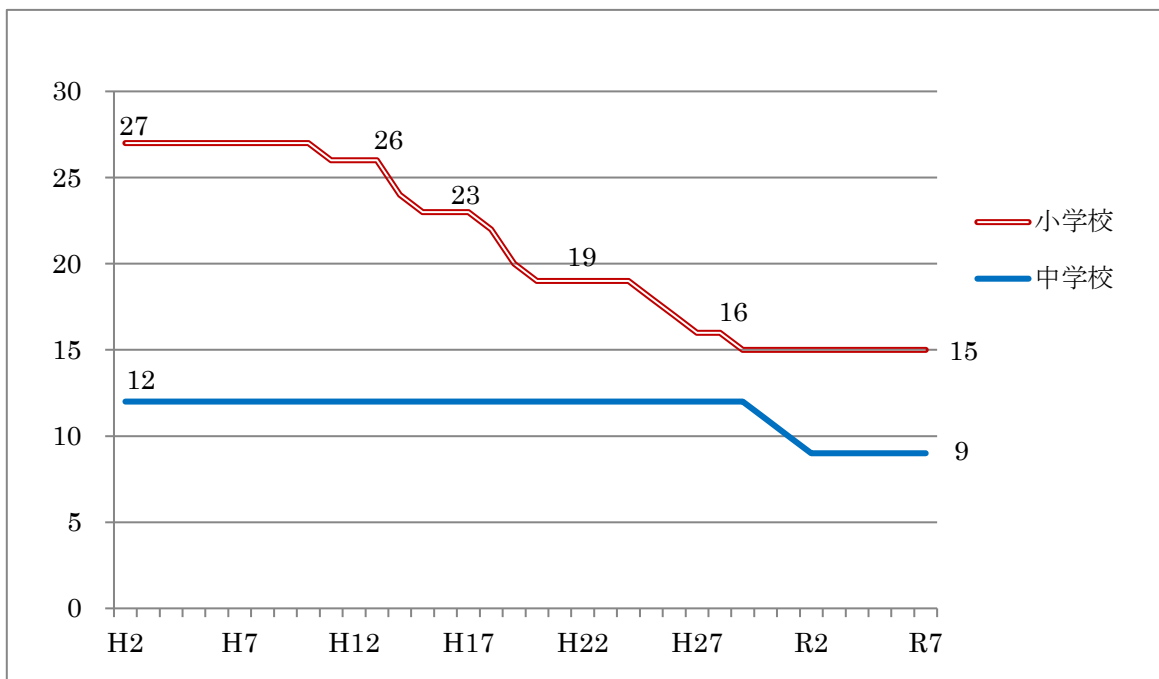
注) 途中、貸付を停止した者も含む

2 益田市の児童生徒数・学校規模等について

(1) 児童生徒数の推移（平成2年度～令和7年度）



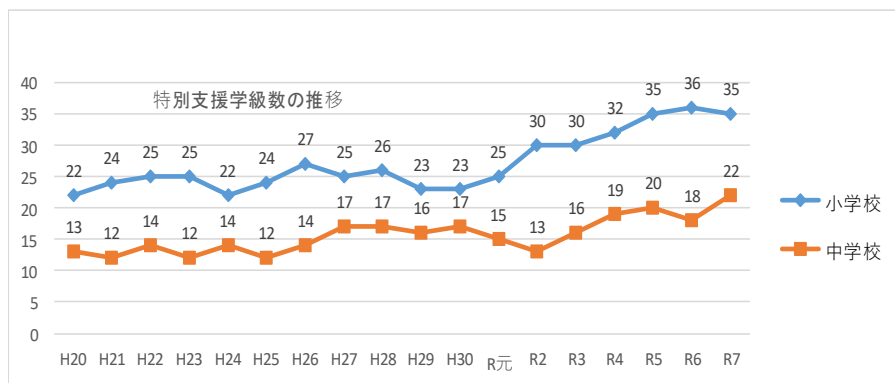
(2) 学校数の推移（平成2年度～令和7年度）



(3) 特別支援学級及び在籍児童生徒の推移

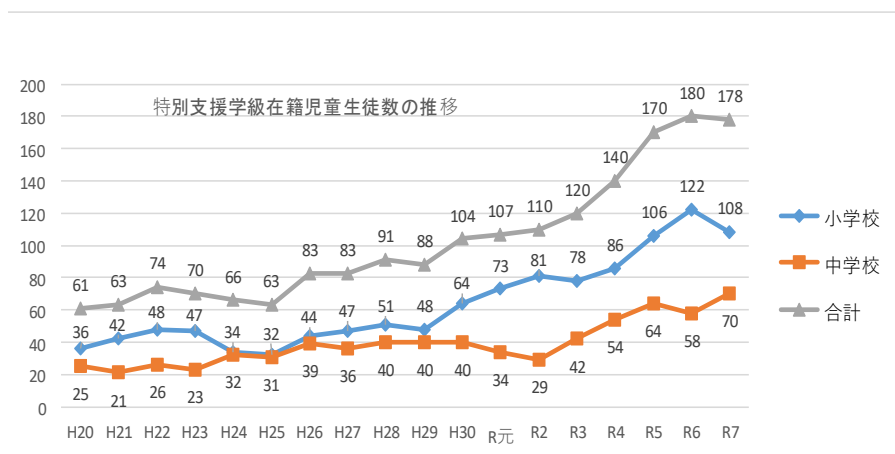
特別支援学級数 (毎年度5月1日現在) (単位: 学級)

区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小学校	22	24	25	25	22	24	27	25	26	23	23	25	30	30	32	35	36	35
中学校	13	12	14	12	14	12	14	17	17	16	17	15	13	16	19	20	18	22
合計	35	36	39	37	36	36	41	42	43	39	40	40	43	46	51	55	54	57



特別支援学級在籍児童生徒数 (毎年度5月1日現在) (単位: 人)

区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小学校	36	42	48	47	34	32	44	47	51	48	64	73	81	78	86	106	122	108
中学校	25	21	26	23	32	31	39	36	40	40	40	34	29	42	54	64	58	70
合計	61	63	74	70	66	63	83	83	91	88	104	107	110	120	140	170	180	178



(4) 学校施設の整備の状況 (令和7年3月末現在)

① 本市の学校施設耐震化状況 (非木造及び木造)

○耐震化率 97.1%

○未耐震化施設数 2校2棟 (非木造: 1棟、木造: 1棟)

② 本市の学校トイレ整備状況

○洋便器化率: 56.4% (昨年: 51.3%) 基数: 295/523基

3 一般会計（当初予算）に占める教育費の現状（他市との比較）について

益田市

（単位：千円）

年 度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 7 年度	27,903,000	3,111,452	11.2
令和 6 年度	27,070,000	2,413,124	8.9
令和 5 年度	26,395,000	2,190,800	8.3
令和 4 年度	26,631,000	2,100,417	7.9
令和 3 年度	25,984,000	2,483,091	9.6

松江市（松江市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 7	112,990,000	11,095,852	9.8
令和 6	106,415,000	11,355,367	10.7
令和 5	103,515,000	12,798,563	12.4
令和 4	103,578,000	11,260,119	10.9
令和 3	98,176,000	10,402,746	10.6

出雲市（出雲市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 7	91,960,000	12,468,331	13.6
令和 6	89,770,000	14,586,381	16.2
令和 5	89,300,000	16,850,914	18.9
令和 4	80,250,000	10,647,879	13.3
令和 3	77,700,000	9,155,223	11.8

安来市（安来市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 7	28,870,000	2,734,744	9.5
令和 6	27,070,000	2,953,810	10.9
令和 5	26,150,000	2,664,327	10.2
令和 4	25,150,000	2,139,015	8.5
令和 3	24,860,000	2,635,979	10.6

雲南市（雲南市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 7	31,120,000	3,484,483	11.2
令和 6	32,930,000	3,655,485	11.1
令和 5	31,570,000	2,515,219	8.0
令和 4	31,530,000	2,846,631	9.0
令和 3	27,370,000	2,201,862	8.0

大田市（大田市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 7	25,980,000	2,355,182	9.1
令和 6	24,150,000	1,935,028	8.0
令和 5	22,530,000	1,816,525	8.1
令和 4	23,170,000	1,590,544	6.9
令和 3	24,400,000	1,652,406	6.8

浜田市（浜田市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 7	43,305,986	3,947,425	9.1
令和 6	39,142,675	3,287,954	8.4
令和 5	37,390,000	3,187,042	8.5
令和 4	38,910,000	2,893,047	7.4
令和 3	37,230,000	2,750,919	7.4

江津市（江津市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 7	18,751,000	1,735,820	9.3
令和 6	18,474,000	1,702,352	9.2
令和 5	15,665,000	1,169,536	7.5
令和 4	15,436,000	1,198,351	7.8
令和 3	15,017,000	1,065,613	7.1

4 令和6年度学力調査結果について

【全国学力・学習状況調査及び島根県学力調査結果について】

(1) 教科に関する調査の結果から

- ・全国学力調査では、小学校は国語・算数ともに全国平均及び県平均を下回った。中学校は国語・数学ともに全国平均及び県平均を下回った。
- ・県学力調査では小6算数は県平均と同等であった。小5国語・算数、小6国語、中1国語・数学・英語、中2国語・数学・英語は県平均を下回った。

(2) 生活・学習意識調査及び質問紙調査の結果から

①家庭学習の充実

- ・全国学力・学習調査の児童生徒質問紙において、学校の授業時間以外に普段（月～金）1日1時間以上勉強する割合は、小学校は、全国平均より11ポイント、県平均より8ポイント下回った。中学校は全国平均より24ポイント、県平均よりも11ポイント下回った。特に、全国学力・学習状況調査において「家庭学習をほとんどしない」と回答した生徒の割合が中学校平均で13.5%となっている。10人に1人は家庭学習をほとんど行っていない状況である。12月に行われた島根県学力調査では、中1は27.5%、中2は34.3%となり、3人に1人は家庭学習をほとんど行っていない状況である。
- ・小中学校共に、メディア依存の傾向が強い。島根県学力調査の児童生徒質問紙において、「平日のテレビゲーム利用が4時間以上」と回答した児童生徒の割合が小5は18%、小6は20%、中1は21%、中2は18%、「平日の携帯電話・スマートフォンの利用が4時間以上」と回答した児童生徒の割合が、小5は14%、小6は20%、中1は21%、中2は24%となっており、県平均を3～7ポイント上回っている。

②ICT活用の一層の充実

- ・授業におけるICT機器活用率は、島根県学力調査の児童生徒質問紙において、小学校・中学校いずれも概ね県平均値並みであり、活用が進んでいる。一人一台端末活用を促進し、端末を学校だけにとどまらず、家庭・地域等でも積極的な活用を推進する。
- ・児童生徒のICT機器活用を推進するには、指導者である教職員の活用能力を高めることやICT機器への抵抗感の軽減も必要になる。「新しい学びのカタチ推進協議会」を通し、推進校4校の効果的な実践を市内全体で共有し、教職員のICT機器活用能力の向上を図った。

【教科正答率一覧】

小 6 国語・算数、中 3 国語・数学は全国学力・学習状況調査（４月実施）、他は島根県学力調査（１２月実施）の結果による

（○＝県平均より 3 ポイント以上上回るもの▽＝県平均より 3 ポイント以上下回るもの）

学年	教科	益田市	島根県	比較	学年	教科	益田市	島根県	比較
小 5	国語	6 3	6 5		中 1	国語	5 4	5 9	▽
	算数	5 2	5 6	▽		数学	4 7	5 2	▽
小 6	国語	6 3	6 7	▽		英語	4 4	4 9	▽
	算数	5 7	6 1	▽	中 2	国語	5 5	5 7	
						数学	4 4	4 9	▽
						英語	4 3	4 4	
					中 3	国語	5 4	5 7	▽
						数学	4 8	4 9	

5 教育設備等について

（１）学校における ICT 環境の整備

（令和 6 年 3 月 1 日現在）

項 目	益田市	島根県平均	全国平均
児童生徒一人当たりの学習者用コンピューター台数（台/人）	1.0 畠	1.0 畠	1.1 畠
無線 LAN 又は移動通信システム (LTE 等) によりインターネット接続を行う普通教室の割合	94.6%	97.6%	98.3%
インターネット接続状況（1Gbps 以上）	100.0%	74.8%	81.0%
普通教室の大型提示装置整備率	95.6%	90.6%	89.6%
統合型校務支援システム整備率	58.3%	79.3%	91.4%

※「令和 5 年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」より

（２）益田市の教員の ICT 活用状況

（令和 7 年 3 月末現在）

① 授業において週 1 回以上 ICT 機器を活用している教員の割合

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
小学校	9 2. 3 %	1 0 0. 0 %	1 0 0. 0 %
中学校	8 5. 4 %	1 0 0. 0 %	1 0 0. 0 %
全 体	8 8. 9 %	1 0 0. 0 %	1 0 0. 0 %

② 授業において 1 日 1 回以上 ICT 機器を活用している教員の割合

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
小学校	7 9. 2 %	8 0. 0 %	9 3. 3 %
中学校	6 6. 4 %	1 0 0. 0 %	1 0 0. 0 %
全 体	7 2. 8 %	9 0. 0 %	9 6. 7 %

(3) 学校図書館の図書整備状況

図書購入費の推移（当初予算）

（単位：千円）

区分	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小学校	1,276	382	386	372	362	382	1,140	1,140	2,100
中学校	798	509	471	475	446	465	1,500	1,500	3,140
合 計	2,074	891	857	847	808	847	2,640	2,640	5,240

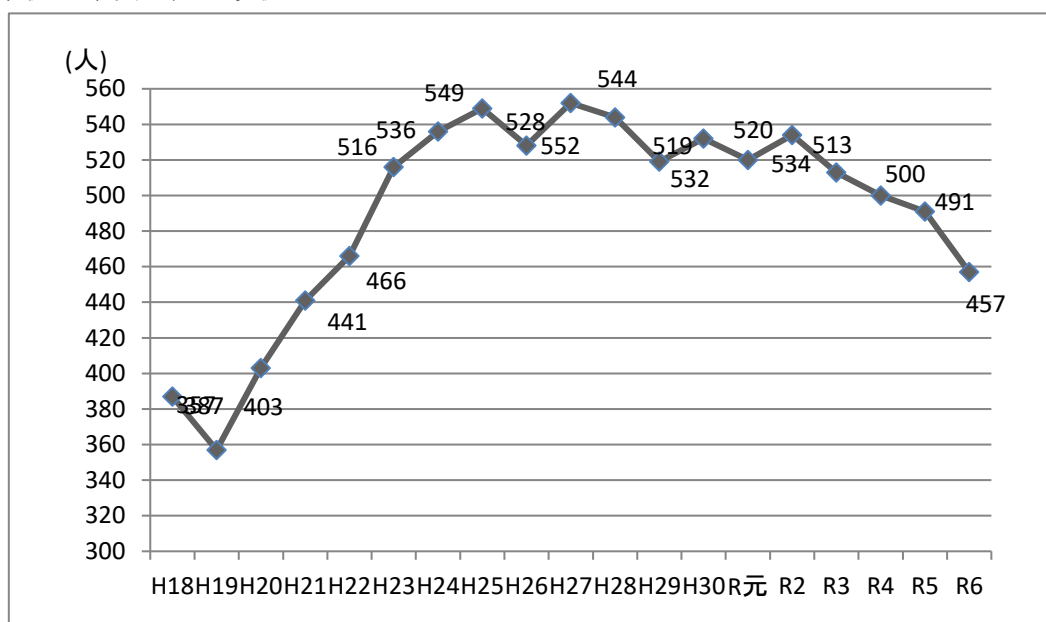
6 就学援助について

(1) 準要保護児童生徒の認定状況の推移

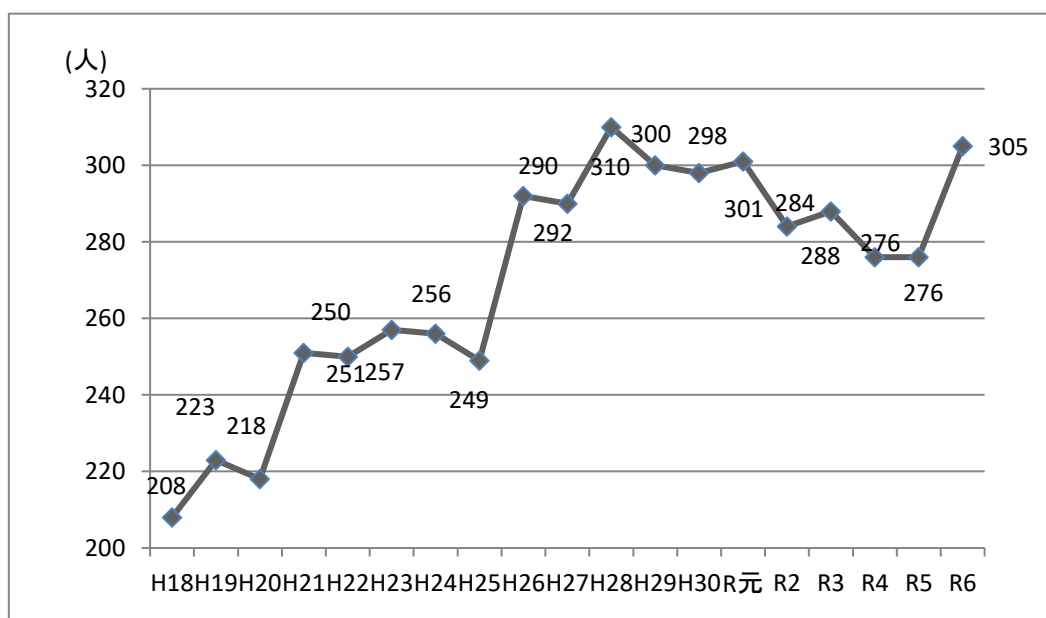
令和6年度末の小学校の認定数は、457人と全体の21.9%を占めている。

また、中学校の認定数が305人と全体の26.4%を占めている。

小学校の年度別認定状況



中学校の年度別認定状況



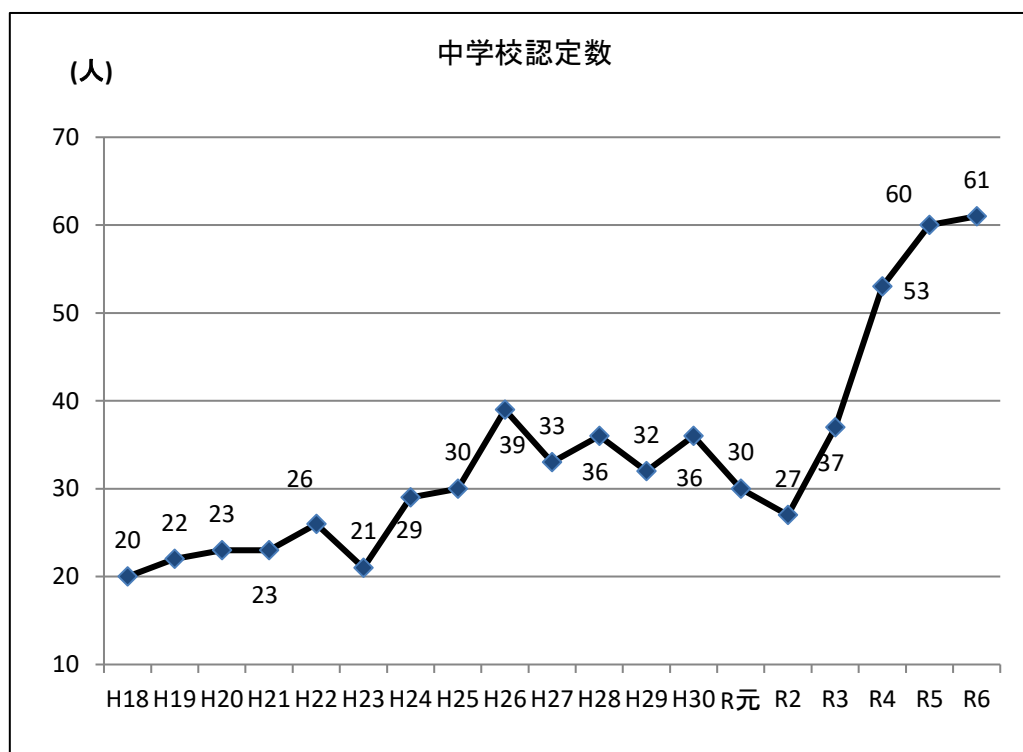
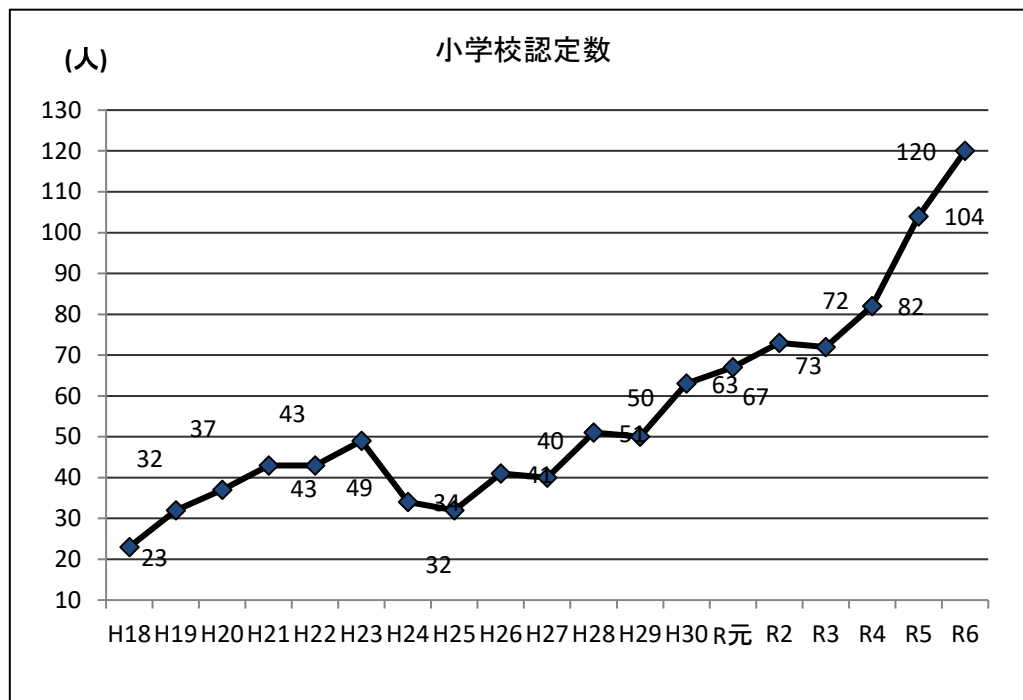
※援助の対象となる世帯は

前年度または当年度において

- ・市民税が非課税または減免になっている。
- ・児童扶養手当法による手当の支給を受けている。
- ・家族の休職・離職・離婚・病気などで経済的に不安定な状況にある。

その他一定の基準により所得状況等を勘案のうえ、教育委員会が認定する。

(2) 特別支援教育就学奨励児童生徒の認定状況の推移



(3) 特別支援教育支援員等の配置状況 (4月1日現在)

区分	令和6年度			令和7年度		
	学校教育支援員	特別支援学級支援員	日本語支援員	学校教育支援員	特別支援学級支援員	日本語支援員
小学校	15	11	5	17	8	6
中学校	0	3	2	0	9	2
計	15	14	7	17	17	8

学校教育支援員 : 通常学級に在籍する児童生徒に支援を行う。

特別支援学級支援員 : 特別支援学級の在籍児童生徒に支援を行う。

日本語支援員 : 日本語指導が必要な児童生徒に支援を行う。

※介助員・看護師は除く。

7 益田市立図書館について

(1) 令和6年度 益田市立図書館蔵書等利用状況

【益田市立図書館】入館者及び利用者 (下段(参考)令和5年度)

開館 日数	入館者数 (人)	利用者数 (人)	図書資料および視聴覚資料貸出状況						
			一般書 (冊)	児童書 (冊)	学校資料 (冊)	雑 誌 (冊)	A V 資料 (点)	郷土資料 (冊)	計
335	106,420	31,968	55,990	51,040	283	10,257	2,568	1	120,139
338	102,058	32,263	56,580	51,845	348	10,483	2,822	2	122,080

【益田市立美都図書館】入館者及び利用者 (下段(参考)令和5年度)

開館 日数	入館者数 (人)	利用者数 (人)	図書資料および視聴覚資料貸出状況						
			一般書 (冊)	児童書 (冊)	学校資料 (冊)	雑 誌 (冊)	A V 資料 (点)	郷土資料 (冊)	計
272	1,414	1,000	1,339	1,266	-	134	117	12	2,868
274	1,314	859	1,283	1,181	-	146	55	0	2,665

(2) 令和6年度 資料等整備状況

【益田市立図書館】

① 図書資料 (下段(参考)令和5年度)

年間蔵書内訳				令和5年度末蔵書数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入冊数	除籍冊数	受入冊数	除籍冊数			
2,284	1,576	1,051	390	135,738	52,591	188,329
2,393	1,814	730	601	135,033	51,921	186,954

② 視聴覚資料 (下段(参考)令和5年度)

年間タイトル内訳				令和5年度末タイトル数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入数	除籍数	受入数	除籍数			
19	0	0	0	5,368	1,463	6,831
7	1	0	1	5,349	1,463	6,812

【益田市立美都図書館】

① 図書資料（下段(参考)令和5年度）

年間蔵書内訳				令和5年度末蔵書数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入冊数	除籍冊数	受入冊数	除籍冊数			
212	175	76	127	17,128	10,934	28,062
219	141	76	40	17,092	10,982	28,074

② 視聴覚資料（下段(参考)令和5年度）

年間タイトル内訳				令和5年度末タイトル数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入数	除籍数	受入数	除籍数			
1	0	0	0	644	277	921
1	0	0	1	643	277	920

8 放課後子ども教室について

＜放課後子ども教室（益田市では「ボランティアハウス」と称す）の目的＞

小学校の子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちの勉強やスポーツ・文化活動、交流活動等に取り組むことにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

【対象者】小学生（1年生～6年生）

【指導員】地域住民のボランティアなど

【活動内容】各教室が独自の内容で運営

令和6年度 教室実施状況

子ども教室名	活動日数	参加児童 延べ人数	子 育 て パートナー 延べ人数	活 動 内 容
高 津 ボランティアハウス	154	9,102	1,176	自由遊び、自主学習など バスケットボール、めだか取り、おやつづくりなど
吉 田 ボランティアハウス	125	1,236	397	開催日ごとに内容を決めて活動（民謡、お茶、お花、おやつづくりなど）
安田ボランティア ハウス千鳥園	206	2,373	427	自由遊び（プレーパーク千鳥園内で自由に遊ぶ）
益 田 ボランティアハウス	60	257	266	開催日ごとに内容を決めて活動（将棋、お琴、工作など）
西益田 ボランティアハウス	18	589	216	季節の行事にあった活動（稚鮎の放流、七夕飾り作り、お月見会など）
真 砂 ボランティアハウス	24	170	93	開催日ごとに内容を決めて活動（季節の行事など）、お琴体験、魚釣りなど
種 ボランティアハウス	36	73	40	軽スポーツ、宿題、料理教室など

東仙道 ボランティアハウス	20	376	51	本の読み語り、アイロンビーズ、吹き矢など
ひとまる 小 野 ハ ウ ス	37	494	240	羽根つき、ドッチボール、テーブルゲーム、 苗植えなど
都 茂 ボランティアハウス	10	111	67	体験活動等（防災キャンプ、季節の行事など）
二 条 ボランティアハウス	25	238	78	自由遊び（宿題、自由遊び）、稲作体験
合 計	715	15,019	3,051	

※年間活動日数には、休日の活動日数も含む

9 公民館活動実施状況について

公民館活動を通じて、住民同士が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」「いかす」という機能を発揮し、地域住民の拠点、ひとつづくりの拠点として現役世代はもちろん、その世代と次世代をつなぎ、未来の担い手を育成のための世代間交流を意識した活動を行っている。

令和6年度 公民館活動実施状況

地区名	事業数	幼児	小学生	中学生	高校生	20歳未満	20歳以上 65歳未満	65歳以上	不明	合計	前年実績	割合
益田	733	5	441	213	68	20	5,216	3,692		9,655	5,415	178%
吉田	731	104	870	257	24	5	1,795	5,731		8,786	9,070	97%
高津	1,390	169	1,208	289	184	17	3,723	8,404	2,628	16,622	15,207	109%
安田	943	241	461	140	69	89	2,457	7,371	11	10,839	9,250	117%
鎌手	709	120	942	217	32	56	2,273	5,370		9,010	7,849	115%
種	183	0	53	0	0	0	1,260	483		1,796	1,280	140%
北仙道	790	103	1,802	680	1,360	0	2,796	2,734		9,475	9,426	101%
豊川	471	6	372	287	180	17	195	251		1,308	1,441	91%
真砂	100	85	154	54	23	38	530	655		1,539	1,977	78%
豊田	993	231	1,126	568	73	180	3,816	6,349		12,343	9,314	133%
西益田	600	124	117	380	44	17	1,930	4,109		6,721	6,071	111%
二条	484	63	300	57	1	20	1,257	2,287		3,985	4,826	83%
美濃	196	1	43	1	0	2	278	1,135	342	1,802	2,198	82%
小野	918	43	701	87	6	4	2,047	4,732	1,085	8,705	10,434	83%
中西	682	159	865	231	174	62	3,214	5,473		10,178	10,714	95%
東仙道	408	77	510	64	11	13	1,007	2,934		4,616	5,205	89%
都茂	319	94	624	160	0	2	580	807	48	2,315	2,569	90%
二川	290	23	211	6	9	4	689	1,114		2,056	2,293	90%
匹見上	236	70	237	87	0	10	1,824	1,152		3,380	2,574	131%
匹見下	484	12	72	10	0	0	95	1,680		1,869	1,809	103%
道川	277	16	80	52	1	2	376	892		1,419	1,520	93%
	11,937	1,746	11,189	3,840	2,259	558	37,358	67,355	4,114	128,419	120,442	107%

10 スポーツ活動の推進について

市民生活におけるスポーツの果たす役割の重要性を考慮し、スポーツで人と人をつなぎ、誰もがスポーツに親しめる環境づくりを進めます。

(1) 「する」 スポーツの充実

① 事業名 令和6年度エンジョイ・スポーツますだ

《事業内容》

市民の健康増進と体力向上に向け、スポーツ等を通して健康で豊かなスポーツライフの実現を目的として、スポーツ・レクリエーション団体等により市民の生涯スポーツの普及と健康増進、体力向上に向けた事業を実施。ニュースポーツをはじめとする12種目を開催。

○開催期日 令和6年9月28日（土）～12月3日（火）

○開催場所 益田運動公園内各施設

○種目別参加者実績 13種目 508名

② 事業名 益田運動公園主催事業（各種教室、イベント等）

《事業内容》

益田運動公園主催により、様々なスポーツやレクリエーション等の教室やイベントを開催し、子どもから高齢者、障がい者の方々と楽しく体を動かすことができる場を提供。

○開催回数 教室・・・578回 6,243人参加

教室訪問型・・・30回 645人参加

イベント・・・16回 1,621人参加

○開催場所 教室・イベント・・・益田運動公園施設、公民館

教室訪問型・・・益田運動公園施設、公民館、学校

(2) 「みる」 スポーツの充実

① 事業名〈高体連関係〉

令和6年度島根県高等学校テニス個人選手権大会石見地区予選 4/13～4/14

令和6年度島根県高等学校春季野球大会 兼

第142回春季中国地区高等学校野球大会島根県予選 4/26～4/28

中国高等学校卓球選手権大会島根県予選大会 4/26～4/28

令和6年度島根県高等学校テニス個人選手権大会 4/27～4/28

第99回島根県高等学校野球益田地区選手権大会 5/18～5/19

令和6年度島根県高等学校総合体育大会（サッカー）-男子の部 5/30～6/1

令和6年度全国高等学校総合体育大会島根県予選（剣道） 5/31～6/1

第100回島根県高等学校野球益田地区選手権大会 8/17～8/18

令和6年度島根県高等学校テニス新人大会石見地区予選 8/24～8/25

第70回島根県高等学校新人陸上大会 兼

第33回中国高等学校新人陸上競技対校選手権大会島根県予選会 9/14～9/15

令和6年度島根県高等学校テニス新人大会 9/14～9/15

第55回益田地区高校バレーボール大会 9/15

令和6年度島根県高等学校秋季野球大会 兼

第143回秋季中国地区高等学校野球大会島根県予選 9/19～9/22

令和 6 年度フレッシュトーナメント(石見地区)(野球) 10/5～10/6、10/12～10/13
令和 6 年度島根県高等学校弓道選手権大会 10/25～10/27

〈中体連関係〉

第 58 回島根県中学校総合体育大会(サッカー) 7/20～7/22

〈社会人関係〉

第 58 回全日本社会人卓球選手権大会島根県予選大会 6/9

2024 年全日本卓球選手権大会(マスターズの部) 島根県予選大会 6/9

第 78 回国民スポーツ大会(卓球競技)成年の部島根県最終選考会 6/9

天皇賜杯全日本軟式野球大会益田予選 6/30

天皇賜杯全日本軟式野球大会ブロック予選 7/21

2025 年全日本卓球選手権大会(一般の部) 島根県予選大会 10/12～10/13

2025 年全日本卓球選手権大会(ダブルスの部) 島根県予選大会 10/12～10/13

第 96 回西中国陸上競技大会 10/26～10/27

《事業内容》

現在、プロスポーツを誘致できる施設が少なく、市内の子ども達にプロスポーツを見せる機会がないのが現状。しかし、県内の高校生の大会や、中学校県大会、また、全国大会につながる社会人の大会を小学生や中学生が見ることで、スポーツへの関心や意欲を高めると同時に、県内の競技力の向上にもつながる。

(3) 「ささえる」スポーツの充実

① 事業名 一般社団法人益田市スポーツ協会との連携

《事業内容》

益田市の競技スポーツの振興、またスポーツを通じた市民の健康づくりに取り組む一般社団法人益田市スポーツ協会への支援を行う。

○スポーツ協会参画団体数 28 団体

(4) 「地域社会」との連携

① 事業名 令和 6 年度地域で取り組む生涯スポーツ推進事業

《事業内容》

児童、未就学児を対象に運動好きな子どもを育てるために、学校やその他の地域団体と連携し地域ぐるみで、学校教育活動外の時間を活用しながら様々なスポーツやレクリエーションなどを開催。また、市内の小学生親子を対象とした教室を年間通して開催。

○開催期日 令和 6 年 6 月～令和 7 年 2 月

【訪問型】6 回

【教室型】8 回

○開催場所 【訪問型】中西小学校

【教室型】内田交流センター、益田市民体育館、高津中学校、
美都さくらドーム、美都グラウンドゴルフ場、市民学習センター

○講師 【訪問型】益田市スポーツ推進委員

- 参加者実績
- 【教室型】 益田市スポーツ推進委員、ピラティスインストラクター、3B 体操講師、益田市体操協会、益田市サッカー協会、益田東高校野球部
 - 【訪問型】 参加児童等 190 名（延べ人数）
 - 【教室型】 参加親子 178 名（延べ人数）

1 1 文化芸術の振興について

(1) 協議会、実行委員会

① 令和6年度芸術文化とふれあう協議会事業

(ア) グラントワ利用支援事業（バス代等交通費助成）

- ・ 益田市 24 件 1,252,060 円
- ・ 津和野町 4 件 46,400 円
- ・ 吉賀町 0 件 0 円

(イ) 意識啓発事業（いつでもどこでも音楽祭実施・地域や学校へ出かけてのアウトリーチ演奏会及び講座）

- ・ いつでもどこでも音楽祭 3 回
- ・ アウトリーチ演奏会等 1 回

(ウ) 小中学校石見美術館入館無料化事業（圏域の小中学生を対象に、無料で美術館へ入館可能とする。また同伴保護者1名につき半額減免する。）

- ・ 小学生 243 人
- ・ 中学生 66 人
- ・ 同伴者 137 人

(2) 令和6年度 文化施設の入館者数

① 雪舟の郷記念館 休館中のため実績なし

② 歴史文化交流館 令和5年度展示ルーム入館者数

	開館日数（日）	入館者数（人）
R5	309	7,836

※令和5年度は開館記念として入館料無料としたため、歴史文化交流館入館者数を展示ルーム入館者数として報告

歴史文化交流館 令和6年度展示ルーム入館者数

	開館日数 （日）	有料入館者 （人）	無料入館者（人） ※年間パスポート、散策チケット等含む		入館者数合計（人）		
		個人	小中高	その他	有料	無料	合計
R6	274	一般 1,018	770	6,407	1,018	7,177	8,195

(3) 令和6年度 偉人顕彰、後継者育成

① 秦佐八郎博士顕彰学校等出前講座（記念館見学含む）

市内小学校 5 校 市内公民館 4 館 市内団体 1 団体

② 糸操り人形後継者育成事業

益田の伝統芸能である益田糸操り人形にふれて、理解を深めてもらうため、学校や公民館、市民学習センター等で出前公演およびワークショップを開催する。

市内小学校 5 校 市外高等学校 1 校 公民館・高齢者施設 5 団体

12 ライフキャリア教育の取組状況について

令和6年度 ライフキャリア教育の取組状況

(1) 「夢の教室」の開催

- 概 要 世界で活躍しているトップアスリートと小学生による交流プログラムである。子どもたちが、トップアスリートが日々の生活で大切にしている考えに触れ、日々の生活においての目標を持つきっかけを提供する。(公財)日本サッカー協会の社会貢献事業として実施している「夢の教室」を活用する。
- 開 催 日 令和6年6月25日～令和6年9月5日
- 実 施 校 益田市内 小学校(12校) 5年生(内複式5・6年(4校))
児童 352名
- 夢 先 生 酒井友之(サッカー)、柴村直弥(サッカー)、小西祥子(陸上競技)
藤岡奈穂子(ボクシング)、坪井保菜美(新体操)、高島卓久馬(ラグビー)

(2) 「対話プラス」の開催

- 概 要 子どもと地域の大人が、1対1で対等に自分自身のとこを語り合う授業で、成功者による講演や職業講話ではなく、地域で前向きに生活している大人と子どもが、これまでの人生について失敗談を含めて等身大で語り合います。2時間の授業を本音で語り合うことによって、子どもと地域の大人が繋がり、その後も気軽に話し合える関係になります。
- 実 施 校 小学校 14校(益田、高津、吉田、吉田南、安田、鎌手、真砂、豊川、西益田、戸田、中西、東仙道、都茂、匹見)
中学校 9校(益田、高津、益田東、東陽、横田、小野、中西、美都、匹見)
高等学校 4校(益田、翔陽、明誠、益田東)
※参加者数:1,427名、参加キャスト438名(延べ人数)

(3) 「益田版・職場体験」の実施

- 概 要 市内の中学3年生が、市内の事業所で職場体験を行う。ワークキャリア(職業観)のみに偏った単なる仕事の体験ではなく、そこで働く「ひと」や「生き方」との出会いの体験を大切にしたい職場体験である。働いている人との対話などの交流を通して、職業観や人生観を育む。また、「求人票」の発行や「面接」の実施など、これまでより中学生が主体的に職場体験に臨むことができる工夫をしている。
- 実 施 校 中学校 9校
※参加者 406名、事業所 140社

(4) 「ロールモデル接続事業」の実施

- 概 要 高校生等と多様なロールモデルを接続し、高校生等が多様なライフキャリアに触れる場を構築する。それにより、高校生等に新たな価値観が芽生え、学校外の活動が創出されることを目的とする。
- 実 施 数 ロールモデル 23名
※参加者 251名(市内高校生 89名、小中高生 4名、その他 148名)

1 3 歴史・文化財等の調査研究、普及啓発について

(1) 益田市指定文化財一覧表

(令和7年4月1日現在)

種別／区分		指定区分						合計
		国宝	重要文化財	国指定	登録文化財	県指定	市指定	
有形文化財	建造物		2		10	3	5	20
	絵画		3			2	7	12
	彫刻					4	13	17
	工芸品						4	4
	書跡							
	古文書					3	8	11
	考古資料					1	5	6
	歴史資料						1	1
無形文化財	工芸技術							
民俗文化財	有形民俗文化財					2	2	4
	無形民俗文化財					2	11	13
記念物	史跡			4		4	41	49
	名勝					1		1
	史跡及び名勝			2			1	3
	天然記念物			1		2	9	12
	特別天然記念物							
合計			5	7	10	24	107	153
			12					

※この他、「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」(昭和8年4月1日法律第43号)による認定重要美術品として「柿本神社御法楽御短冊」がある。

○ 益田市指定文化財一覧 (時代別)

(令和7年4月1日現在)

	国宝		重要文化財		国指定		登録文化財		県指定		市指定		合計
原始									史跡1	1	考古2 史跡9	11	12
古代					史跡2	2			彫刻1 史跡2	3	彫刻2 考古1 史跡11	14	19
中世			建造物2 絵画2	4	史跡2 史名2	4			建造物2 絵画2 彫刻3 古文書3 考古1 史跡1	12	建造物3 絵画1 彫刻9 工芸品1 古文書5 考古2 史跡15	36	56
近世			絵画1	1			建造物4	4	建造物1 有民1	2	建造物2 絵画6 彫刻1 工芸品3 古文書2 歴資1 有民2 無民2 史跡6	25	32
近代							建造物6	6	有民1 無民2	3	彫刻1 無民9 古文書1	11	20
その他					天然1	1			名勝1 天然2	3	史名1 天然9	10	14
合計			5		7		10		24		107		153

(2) 調査研究の推進

市内の歴史や文化財について、他の研究組織と連携して調査研究を実施した。

研究名	研究主体	備考
益田家伝来品の伝来・伝世に関する文書の調査研究	島根県立石見美術館	R 6
16 世紀西日本港町の構造と相関	東京大学史料編纂所	R 5 ～ R 8

(3) 学校との連携

子どもたちが地域の歴史文化に対する理解や関心を深めることができるよう、益田の古墳や日本遺産の説明、社会科見学の受け入れなどの学習支援を行った。

実施日	学校名	内容	参加者数
令和 6 年 5 月 28 日 (火)	益田市立都茂小学校・東仙道 小学校 5・6 年生	出前授業「美都の歴史」、土器洗い体験	23 人
7 月 2 日 (火)	益田市教研社会科部会	「山城サミットと益田の山城」	22 人
7 月 3 日 (水)	益田市立中西小学校 6 年生	心に残る文化財子ども塾	21 人
9 月 24 日 (火)	益田市立小野中学校 1 年生	総合的な学習「中世益田の歴史について」	8 人
10 月 17 日 (木)	益田市立小野中学校 1 年生	総合的な学習「中世益田の歴史について ー現地見学」	5 人

(4) 地域との連携

益田市の歴史文化や日本遺産の魅力・価値について理解を深めてもらい、地域に対する誇りの向上につなげるため、講演会や現地見学などに対して講師の派遣を行った。

実施日	講座名等	主催者	区分	参加者数
令和 6 年 4 月 20 日 (土)	総会研修会講演	益田市保育研究会	講師	130 人
5 月 16 日 (木)	二条歴史読み合わせ教室	二条公民館	講師	15 人
5 月 18 日 (土)	歴史茶話会「山城とは」	吉田地区自治協議会	講師	37 人
5 月 22 日 (水)	歴史探訪講座 歴史散策「暁音寺・妙義 寺編」	益田公民館	現地案内	25 人
5 月 27 日 (月)	「第 31 回全国山城サミット益田大会に ついて」	益田市雪舟顕彰会	講師	37 人
7 月 17 日 (水)	ふる里歴史教室「中世益田の歴史(基礎 編)」	安田公民館	講師	12 人
7 月 20 日 (土)	歴史茶話会「吉田地区の山城」	吉田地区自治協議会	講師	20 人
7 月 28 日 (日)	山陰学校茶道連絡協議会研修会「益田氏 が所有した名物と背景」	茶道裏千家淡交会石見学 校茶道連絡協議会	講師	150 人
9 月 5 日 (木)	益田市内史跡案内	九州大学大学院	現地案内	10 人
9 月 10 日 (火)	ふる里歴史教室「全国山城サミットと益 田の山城」	安田公民館	講師	17 人
9 月 14 日 (土)	西部地区私立幼稚園教育研修会講演	益田市私立幼稚園連合会	講師	25 人
9 月 19 日 (木)	第 3 回郷土を知る講座「益田兼堯とその 時代」	吉田公民館	講師	18 人
9 月 21 日 (土)	歴史茶話会「古文書から見た益田の山城」	吉田地区自治協議会	講師	22 人
9 月 22 日 (日)	キッズキャンプ神社 de キャンプ「中世 益田について」	島根県キャンプ協会	講師	20 人
9 月 26 日 (木)	れきしーな展示案内	益田市観光協会	展示解説	19 人
9 月 27 日 (金)	「美都の山城」	都茂公民館	講師	27 人

10月2日(水)	「山城サミットについて」	益田西ロータリークラブ	講師	25人
10月3日(木)	企画展「中世益田の山城」説明	浜田市社会福祉協議会 旭支所	展示解説	8人
10月4日(金)	企画展「中世益田の山城」説明	浜田市社会福祉協議会 旭支所	展示解説	12人
10月8日(火)	「しまねの古代文化探訪ツアー」	島根県古代文化センター	現地案内	21人
10月9日(水)	企画展「中世益田の山城」	浜田市社会福祉協議会 旭支所	展示解説	8人
10月17日(木)	「山城について」	益田あけぼのライオンズ クラブ	講師	20人
10月19日(土)	歴史茶話会「山城サミット益田大会の見どころ」	吉田地区自治協議会	講師	15人
10月19日(土)	「発掘された山城 2 高津城・普源田 砦・静間城」	石西の文化を学ぶれんげ 草の会	講師	50人
10月23日(水)	企画展「中世益田の山城」	浜田市社会福祉協議会 旭支所	展示解説	10人
10月24日(木)	企画展「中世益田の山城」	浜田市社会福祉協議会 旭支所	展示解説	10人
10月24日(木)	企画展「中世益田の山城」および日本遺 産について	益田市観光協会（東京島 根県人会）	展示解説	15人
10月25日(金)	企画展「中世益田の山城」	浜田市社会福祉協議会 旭支所	展示解説	10人
10月30日(水)	企画展「中世益田の山城」	浜田市社会福祉協議会 旭支所	展示解説	12人
10月30日(水)	鳥取・島根商工会議所事務局長会議「中 世益田の輝きとその遺産」	益田商工会議所	講師	12人
11月5日(火)	日本遺産ソムリエ勉強会講師 (オンライン)	益田市観光協会	講師	58人
11月21日(木)	第5回郷土を知る講座「旧山陰道を歩 き、歴史を体感する」	吉田公民館	講師	12人
11月27日(水)	企画展「中世益田の山城」	益田公民館	展示解説	15人
12月11日(水)	「しまねの古代文化探訪ツアー」	島根県古代文化センター	現地案内	18人
12月12日(木)	100年フード・益田「中世の食」再現プ ロジェクトについて	吉田公民館	講師	7人
12月13日(金)	日本遺産についての解説と構成文化財 の案内	益田市老人クラブ連合会	講師・現 地案内	10人
令和7年 1月17日(金)	市長担当課長会議視察	秘書課	講師	10人
1月27日(月)	ふる里歴史教室「益田兼見とその時代」	安田公民館	講師	12人
2月11日(火)	「鎌倉時代の久城の郷」	櫛代賀姫神社	講師	32人
2月26日(水)	中国地蔵尊霊場会研修会「中世益田の寺 院文化」	光明寺	講師	11人
3月7日(金)	令和6年度第5回埋蔵文化財専門研修 「中世七尾城下町遺跡の調査」	島根県埋蔵文化財調査 センター	講師	40人
3月7日(金)	川崎市商工会議所青年部視察	益田市観光協会	現地案内	15人
3月17日(月)	ふる里歴史教室「安田地区の須恵器窯跡」	安田公民館	講師	15人
3月31日(月)	れきしーな展示案内	匹見下公民館	展示案内	18人

14 人権・同和教育の研修実績について

(1) 教職員向け研修

② 令和5年度

	日 程	演 題	講 師	参加者数
1	7月31日(月) 9:30～11:00	講演 「名誉回復を求めて」 (ハンセン病回復者等の人権)	太田 明 国立療養所菊池恵楓園 元自治会長	115 人 (164 人)
2	8月9日(水) 13:30～16:30	講演 「これからの部落問題」	角岡 伸彦 フリーライター	69 人 (136 人) ※リモート含む
3	8月17日(木) 9:30～11:30	研修 「人権を守るために行動を 起こそう」 (同和問題)	椿 孝二 部落解放同盟島根県連合会 元石西支部長	91 人 (106 人)
4	12月10日(日) 13:00～14:30 グラントワ	講演 「3つの壁を打ち破ろう！」 ～部落差別解消推進法に学ぶ差別 問題理解の基礎基本～	奥田 均 近畿大学名誉教授	47 人 (227 人)
5	7月～2月 各学校で実施	DVD視聴研修 ①君が笑っていた (新型コロナ外) ②シェアしてみたらわかったこと (外国人外) ③映像で見る人権の歴史第3巻 ④映像で見る 人権の歴史第6巻 ⑤ステキな恋愛の法則 (デートDV)	各学校において選択した人権啓 発 DVD を視聴して話し合いをす る少人数型の研修を行った。	116 人

() は参加者総数 計 438 人

② 令和6年度

	日 程	演 題	講 師	参加者数
1	8月7日(水) 9:30～11:40 人権センター	研修 「人権を守るために行動を 起こそう」 (同和問題)	椿 孝二 部落解放同盟島根県連合会 元石西支部長	103 人 (134 人)
2	8月9日(金) 13:30～16:30 人権センター	実践報告 ①「誰もが安心して暮らせる地域づ くり～子ども食堂の取組から～」 ②「一步を踏み出せる子供を育てる ために」	永本 鶴枝 高津子ども食堂 立石 智美 島根県高等学校・特別支援学校 人権教育研究協議会石西地区島 根県立益田翔陽高等学校教諭	176 人 (250 人)
3	8月20日(火) 10:15～12:00 人権センター	講演 「世界はもっと豊かだし、人はもっ と優しい」	森 達也 映画監督・作家	196 人 (274 人)

4	11月12日(火) 13:30～15:00 保健センター	研修 「ご家族のケアを担う子どもたち への支援について」	宮本 恭子 島根大学教授	50人 (154人)
5	11月27日(水) 14:00～16:00 人権センター	研修 「引きこもり支援の動きと島根県 内の状況」 「いっぽの紹介と益田圏域の状況」	小原圭司さん (社会医療法人正光会 松ヶ丘病院 医師) 吉田幸枝さん (社会医療法人正光会 松ヶ丘病院 精神保健福祉士)	32人 (54人)
6	12月21日(土) 13:30～15:30 人権センター	講演 「今ここにある部落差別～差別を許 さない生き方を選ぶことができるよ うに～」	吉岡 綾 部落解放同盟福岡市協議会青 年部	19人 (125人)

() は参加者総数 計 576 人

(2) 人権・同和教育推進協議会委員、事務局員向け研修

② 令和5年度

	日 程	内容・テーマ	講 師	参加者数
1	10月27日(金) 13:30～15:30 匹見タウンホール	研修「あなたにも身近なLGBTQ+」 ～性の多様性に関する理解を深め よう～	尾村 幸行 島根県西部人権啓発推進 センター啓発指導講師	16人
2	11月14日(火) 13:30～15:30 ふれあいホールみと	研修「あなたにも身近なLGBTQ+」 ～性の多様性に関する理解を深め よう～	尾村 幸行 島根県西部人権啓発推進 センター啓発指導講師	37人
3	12月10日(日) 13:00～14:30 グラントワ	講演 「3つの壁を打ち破ろう！」 ～部落差別解消推進法に学ぶ差別 問題理解の基礎基本～	奥田 均 近畿大学名誉教授	80人

計 133 人

② 令和6年度

	日 程	内容・テーマ	講 師	参加者数
1	10月28日(月) 13:30～15:30 匹見タウンホール	研修 「アンコンシャス・バイアス（無意 識の偏見）について」	尾村 幸行 島根県西部人権啓発推進 センター啓発指導講師	25人
2	11月28日(木) 13:00～15:30 東仙道公民館	研修 「災害と人権～避難所における人権 問題～」	岡田 香織 益田市人権・同和教育推進員	37人
3	12月21日(土) 13:30～15:30 グラントワ	講演 「今ここにある部落差別～差別を許 さない生き方を選ぶことができるよ うに～」	吉岡 綾 部落解放同盟福岡市協議会 青年部	125人

計 187 人